

選舉權ヲ停止セララル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス
法律ニ從テ設立シタル會社其他法律ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同
シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半
ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス
一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間
ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ
以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ
依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス
兩級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ
以テ別ニ選舉ノ特別ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有
ス

左ニ掲クル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス
一 所屬府縣郡ノ官吏

二 有給ノ町村吏員

三 檢察官及警察官吏

四 神官僧侶及其他諸宗教師

五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可
シ

代言人ニ非シテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨ス
ルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ
選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數
ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タ
ルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會
議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者町村長若クハ助役ニ
選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其半數ヲ
改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セ
ル、初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ其定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトギハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第二十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何時タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス

可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ
各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ選舉會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 二 被選舉人ノ何人タルヲ確定シ難キモノ
 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
 投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルモ
 ハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコ
 トヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコト
 得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人
 ナリテス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一
 人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ
 代理ノ證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議
 決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ
 此分會ヲ設クルモ妨ケナシ
 分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例
 ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲レタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數
 ナリテ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總
 テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ其效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ
 數相同キモノハ年長ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定
 ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ
 殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序
 ナリテ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル
 後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ
 投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知
 ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ
 一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期日內何レノ選舉ニ應ス可キ
 コトヲ申立ツ可シ其期日內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者
 トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人ノ選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日

ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立タルコトヲ得(第二十七條第一項)

町村長ハ選舉終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ
異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ハス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ
得

選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資
格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハレ
ム可シ

第三十條 當選者中資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後
其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有
無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町
村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件并
從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決ス
ルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ并改正スル事
 - 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲グル事務ハ此限ニ在
ラス
 - 三 歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
 - 四 決算報告ヲ認定スル事
 - 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、町村稅及夫役現品
ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
 - 六 町村有不動産ノ賣買交換讓渡并質入書入ヲ爲ス事
 - 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
 - 八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權
利ノ棄却ヲ爲ス事
 - 九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
 - 十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事
 - 十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
- 第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行
フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ
報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ

職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スルコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選舉ノ效力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長トナス可シ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ召集ス可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日間タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡
參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投
票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數
ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム
若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ
取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤
ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適
用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコト
ヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉
會并延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表
シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ
得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及ヒ其ノ顛末並出
席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員

二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス
可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適
用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ
助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上
ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
若シ其縁故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選
舉ニ當リテ認定ヲ得ルトキハ其縁故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ

抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 町村ノ情况ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及助役ハ其町村公民タル者ニ在ラス但當選ニ應シ認可ヲ得タルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ
第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ開ク

コトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ選舉ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼スルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ期任ハ郡長ノ許可ヲ受ク可シ若シ許可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ開クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ許可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ

具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

収入支出ノ寡少ナル町村ニテハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ
収入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス
町村員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與レ
テ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任
用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ
爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分テ每區區長及其代理者各一名ヲ置
クコトヲ得區長及其代理者ハ各舉職トス

區長及其代理者ハ町村長ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之
ヲ選舉ス區會(第百十四條)ニ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス
第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ
其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選
舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス
常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規則ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱費ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村
會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再任セラレハコトヲ得
町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スル
コトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權
限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長
ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執
行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決
ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止
シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者ナルトキ
ハ其事務ヲ監督スル事

三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他村會ノ議決ニ依テ定マリタル

- 三 收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
 - 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
 - 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ龍責及五圓以下ノ過怠金トス
 - 六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
 - 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事
 - 八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
 - 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管理ス
- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス
 - 二 浦役場ノ事
 - 三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

- 右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルトキヲ得
- 本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス
- 第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
- 町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルトキ得助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ
- 第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル
- 第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス
- 第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス
- 第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス
- 委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有シ助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ并其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス
- 常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコト

ヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額報酬及書記料ノ額(第六十二條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必用ナル場合ニ於テハ使用權(第八十

三條第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權
利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケ
ノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ
得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ
將來法律勅令ニ依テ賦課セラレ、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)并料、過怠金
其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足ア
ルトキハ町村稅(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ
得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニ
スル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ
一 國稅府縣稅ノ附加稅
二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨ
リ徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課

稅スルコトヲ要スルキ賦課徵收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除ク外使用料、手数料(第八十九
條)特別稅(第九十條第二項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條
例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設ク
ルコトヲ得

料料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀
交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス
但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖
モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メタル行商ヲ
除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル
モノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在
ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ課賦シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セ
ントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗
ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス
第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課

スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地
家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲クル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス

一、政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造
物及家屋

二、社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、
營造物及家屋

三、官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起
シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス
新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限り免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ム
ル所ニ從フ皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄今ノ
例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保
存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若ク
ハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス

者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキ
ハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第一百條 町村税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月
ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町
村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ従前ノ稅ヲ徵收スルコト
ヲ得

第一百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役
及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝美術及手工ニ關スル勞役
ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額
ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人
ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)町村税(第九十
條)夫役ニ代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其
他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納
セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町

村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得
 納税者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り
 納税延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越スル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依
 ル
 本條ニ記載スル徵收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル
 規則ヲ適用ス

第三百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納税者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課ス
 ル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第三百四條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之
 ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還
 ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第三百五條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産并其所得ヲ使用ス
 ル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此
 ノ限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第三百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又
 ハ天災時變等已ムテ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ
 要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル
 ノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ
 定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ步
 合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還ヤス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラ
 ス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算

第三百七條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度
 前二ヶ月ヲ限り歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會
 計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第三百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ并地
 方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及資
 産明細表ヲ提出ス可シ

第九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得
テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町
村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコト
ヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以
テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受
ク可キ事項アルトキハ(第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル)先ツ其許
可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第二)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サ
レハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫
算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ
爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時
檢査ヲ爲スヘシ例月檢査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ町村
長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス
第十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ合

セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之
ヲ町村會ノ認定ニ附ス可シ第六十二條第五項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ
町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タル時ハ町
村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第十三條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ
故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村
(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ
若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特別ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルト
キハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關ス
ル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適
用スルコトヲ得

第十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長
之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許
可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ラズ可キ資カヲ有スヘキ町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設ケルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合各ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アルモノハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別定期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務省大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止シ但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サンメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ
其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事
會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百二十四條 內務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル
場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但
改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス
第二百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クル
コトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換
若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ
許可ス可シ

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許
可ヲ受クルコトヲ要ス
一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ
違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 町村特別稅并使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル
事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定
ムル事
第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クル
コトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ并改正スル事
二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
三 町村有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
五 各種ノ保證ヲ與フル事
六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町
村住民ニ負擔ヲ課スル事
七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十
條第二項)
八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以スルノ限ニ在ラ

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノ

トス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第二百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務并町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ

施行ス可シ

第三百三十二條 此法律ハ北海道沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セズ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第三百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第三百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百三十八條 明治九年十月第三百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱・土木起功規則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告

其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百三十九條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

○市制町村制理由

市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可ラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ民法民法ノ二者ニ於テ共ニ一個人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ムル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意思ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受買賣シ他人ト契約ヲ結ヒ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統轄ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ

自治ノ機體ト爲シ以テ其部内ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラス
 現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ末々完
 全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ
 素ト行政ノ區畫ニシテ幾分カ自治ノ制ヲ兼テ有セルカ如シト雖モ是亦全ク
 自治ノ制アリト謂フ可カラス今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナ
 ル自治體ト爲スニ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲
 サントス此階級ヲ設クルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治
 區ニハ其自治體共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト
 雖モ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之ヲ地方
 ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其
 力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トス
 可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ
 維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリ
 ト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ
 即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁
 雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ
 大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉クルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ
 分チ以テ專ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發

達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ
 漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ
 基礎ヲ立ツルノ根源ナリ
 故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負
 擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントスルニハ技術專門ノ職若クハ常職
 トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概テ地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシ
 テ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方人民ノ義務ト爲ス
 是國民タル者國ニ盡スノ本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則ト同ク更
 ニ一步ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキ
 ハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ
 屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成ニ期セス漸次參政
 ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方
 ノ名望アル者ヲ舉ケテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ
 勞費ヲ負ハシメス倦怠ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知
 リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職
 ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定スルニ非ス且
 維新後數次ノ變革ニ於テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ襲用
 スルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラ

ス漸次其目的ヲ達センコトヲ期シテ疑ハサル所以ナリ
 然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加
 ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選舉宜キヲ
 得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例
 アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハ
 サルヲ許ス例ナリ(町村制第六十一條第百二十二條第百二十三條)其他十分
 ニ實地活用ノ方ヲ與ヘタレハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ信
 ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ知識ノ度ニ應シテ宣キヲ取ラサル
 ヲ得ス徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ慎重ヲ
 加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ
 本制ヲ施行スルニ付テハ漸チ以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サル
 モノアリ今其概畧ヲ擧クレハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任
 組織固ヨリ舊ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣
 郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得ス然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ
 待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ
 本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ郡
 鄙ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制度ヲ立ツルノ原質ニ至テハ彼此
 相異ナル所ナシ元來町ト村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣チ同クセサルモ

ノアリテ細カニ之ヲ論スレハ均一ノ標準ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ
 本邦現今ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ都會輻輳ノ地ヲ除ク
 ノ外宿驛ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異同アルコトナシ
 故ニ今之ヲ同一制度ノ下ニ立タシメントス其施政ノ細目ニ至テハ或ハ多少
 ノ差異ヲ見ルコトアルヘシト雖モ此等ハ制度ノ範圍内ニ於テ執行者ノ處分
 斟酌宜キヲ得ルト否トニ在ル可キモノト然レトモ都會ノ地ニ至テハ大ニ
 人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機
 關ノ組織及行政監督ノ例ヲ異ニセリ是固ヨリ町村制ト其性質ヲ異ニスルニ
 非ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得サルナリ即現行ノ區
 別ニ繼續スル所ノモノナリト雖モ從來ノ區ハ郡ノ疆域ヲ離レシテ行政上
 別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサリシモ今改メテ獨立分離セシメ從
 來區ノ下ニ町アリシモ之ヲ改メテ市ヲ最下級ノ自治體ト爲サントス而シテ
 三府市街ノ如キハ其情況又他ノ都會ノ地ト同シカラサルモノアルヲ以テ市
 制中機關ノ組織等ニ於テ二三ノ特例ヲ設クルモノアリ今此市制ヲ施行セン
 トスルモノハ三府其他人口凡二万五千以上ノ市街地ニ在リトス尤郡制制定
 ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今內務大臣ノ定ムル所ニ
 從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府内ノ區
 ト混同スルヲ避クルナリ町村ハ通シテ其組織チ同ス可キハ前述ノ如シト雖

モ其大小廣狹ニ依リ又ハ貧富繁閑ニ依リテ自ラ事情ヲ異ニスルモノナキニ非ス故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村制第十一條、第十四條、第二十五條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第五十九條、第六十三條、第六十四條、第三百二十三條)

市制町村制第一章 總則

凡市町村ハ他ノ自治區ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可カラス即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クトキハ市町村ノ自治體ヲ爲スニ足ラサルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ル界域内ニ在テ市町村ニ自主ノ權ヲ付與スルモノトス是ヲ市町村ノ基礎トス

第一款ハ市町村制ヲ施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明カニシ(市制町村制第二條)次テ第一元素タル疆土ニ關スル條件ヲ定ム(市制町村制第三條至第五條)

第二款ハ第二元素ニ關スル條件住民權公民權ノ得喪及住民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制第六條至第九條)

第三款ハ市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一款 市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分劃ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫ヲ

一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土トシ其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ踐行スルノ區域ナリ

故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力貧弱ニシテ其負擔ニ堪ヘス自ラ獨立シテ其本分ヲ盡スコト能ハサルモノアリ是其町村自己ノ不利タルノミナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ有力ノ町村ヲ造成シ維持スルハ國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ廢置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干渉ヲ要スルコト明ナリ圍ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ達スルノ機會ヲ得セシメ其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラス尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ動モスレハ自己ノ利害ニ偏シ永遠ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レス故ニ一ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其承諾ナキモ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通曉スルヲ要シ且公平ヲ示サンカ爲メニ高等自治區參事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス 市制第四條、町村制第五條)

本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規定ヲ設ケス各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯十分ノ資力ヲ有セサル町村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ク此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有シムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ

他ノ町村ニ合併シ又ハ數箇相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラス固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ其原則ナリト雖モ現今各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモ蓋少カラス故ニ合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セス其緩急ヲ行政廳ノ見ル所ニ任スルモノハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ參酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ムルカ如キハ時ニ臨テ訓令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ資力ナキモノハ之ヲ合併シテ以テ法律ノ冀望スル有力ノ町村ヲ造成センコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣濶ニ過キテ地形人情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノアリテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ス又ハ合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘン故ニ町村制第百十六條ニ於テ町村組合ヲ設クルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保チ而シテ共同シテ一定ノ事務ヲ處辨スルモノナリ其共同事務ノ範圍等ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ議定スルニ任ス

凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財產處分又ハ費用ノ分擔ヲ定ムルヲ要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此等ノ處分ハ強テ法理ニ泥マラス

専ラ情義ニ依ルヲ以テ穩當トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンカ爲メ其處分ヲ參事會ニ任セリ而シテ其參事會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サス

市町村經界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ參事會ノ議決ニ付テ終審ニ於テハ行政裁判所ノ判決ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權若クハ使用權ニ關スル爭論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ノ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト雖モ參事會ノ議決ニ付セス行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二款 市町村住民籍及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ住居地ハ必シモ本籍地ナラス本籍ハ殆ント虛名ヲ存スルニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選舉ノ如キ公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサルモノアリ甚タ事實ト相適セス蓋公法上ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可クシテ虛名ニ依ル可カラス故ニ本制ニ於テハ現行本籍寄留ノ法ニ依ラス凡市町村內ニ住居ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ別アルコトナシ尤市町村住民籍即屬籍ノ例規ハ別ニ令法ヲ以テ之ヲ制定センコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本制ノ行ハル、日ヨリ人民ト町村トノ關

係即町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ヲ一變スルモノナリ但戶籍上ノ事即戶主家族ノ關係ニ於テハ之ト相關スルコトナク從前ノ戶籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ營造物ヲ共用シ其財產所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キハ固ヨリ言テ俟タス其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ住居ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ起ル但シ市町村内ニ住居ヲ定メス一時滞在スル者即其市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滞在ノ久キニ至テハ市町村ノ負擔ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

故ニ身羈旅ニ在ル者ト一時ノ滞在在者トテ除クノ外凡市町村内ニ住居ヲ定ムル者ハ即皆市町村住民タリ軍人官吏ノ如キモ亦皆然リ然リト雖モ軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ其市町村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ置クヲ必要ト爲スノ條件アリ即市制第八條、第九條、第十二條、第十五條、第五十五條、第九十六條、町制第八條、第九條、第十二條、第十五條、第五十二條、第九十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ屬籍外タルコト勿論ナレハ敢テ本制ニ掲載セズ

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其資格ニ適フ者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其資格ノ要件ハ自ラ民度風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ酌シ以テ其宜ヲ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自主ノ權ニ任セ適宜之ヲ制定セシム可キカ如シト雖モ又一方ヨリ考ラレハ各地方區々ニ出テ、權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハス各國ノ例ヲ案スルニ是亦異同アリテ一定セズ今本制ハ本邦ノ民度情體ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シ之ヲ制定セリ

各國ノ例ヲ案スルニ大略二類アリ一ハ則市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則特別ノ手續ニ依テ公民權ヲ得ルノ法トス今第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本制ハ市町村住民中市制町村制第七條ニ規定シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス外國人及公權ヲ有セサル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑テ容レズ本制ニ於テハ婦人及獨立セサル者ヲ亦皆公民外ニ置クヲ通例トス但市制町村制第十二條、第二十四條ニ於テハ之ニ選舉權ヲ與フルノ特別アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準テ其他ハ一般ニ二年以來市制町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然ルニ一般ニ二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特別ヲ設ク(市制町村制第十二條)甲市町村ノ住民ニシテ乙市町村内ニ土地ヲ所

有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市制町制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市制町村制第十二條ニ從テ特ニ選舉權ヲ行ハシムル者トス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設クル所以ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セサル無智無產ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルカ爲メナリ然レモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資產者ヲ抑壓スルノ患チ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶タシト期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準ト爲シ市制町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ(市制町村制第九條)即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

- 一 國民籍ヲ失フ事
- 二 公權ヲ失フ事
- 三 市町村內ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事

四 公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五 獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事

六 市町村負擔ノ分任ヲ止ムル事

七 市町村內ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅貳圓以上ヲ納メサル事

租稅息納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セララル、モノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ

公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉被選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ渾テ法律上ノ義務ニ於ケルカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラズ固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナク名譽職ヲ拒辭シ退職シ又ハ實際職務セサル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即間接ノ制裁ヲ存スル所以ナリ(市制町村制第八條)

其裁制ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ、住民權公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條町村制第三十七條)之ニ關スル訴願ハ參事會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大體ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款 自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラス自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖用或ル範圍内ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモノハ一國ノ立法權ヲ以テ周ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域内ニ限り且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限り効力アルモノトス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ教育ノ度ニ伴隨ス可キモノニシテ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ル、所立法官タル者最慎マサル可カラス今本邦各地方ノ情況ヲ裁酌シ自主ノ權ヲ適實ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ模範ヲ示シ猶地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ増減斟酌スルヲ許サントス

市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設クル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物(瓦新局、水道、病院ノ類)ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノヲ謂ヒ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村ト其住民トノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノヲ謂フ其法律命令ニ牴觸スルヲ得サル二者共ニ相同シ但條例ニ依テハ此外制限アリ即法律ニ明文ヲ掲ケテ特例ヲ設

クルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限ル者トス明文ヲ以テ條例ヲ設クルコトヲ許シタル場合ヲ列舉スレハ市制ニ在テハ第十一條、第四十九條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百二條、町村制ニ在テハ第十一條、第十四條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第六十五條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百二條、第一百四條トス其他本制ニ於テ條例ト謂ハスシテ條例ニ均シキ規定ヲ許シタル場合モ亦少カラス其條例ト明言セサル所以ハ専ラ許可ヲ要セサルニ在リ(市制第四十條、第四十八條、第六十條、町村制第四十二條、第五十條、第六十四條)

條例規則ヲ新設改正スルハ市町村會之ヲ議決シ(市制第三十一條第一、町村制第三十三條第一)市制第二百二十二條第一及第二百二十三條第一、町村制第二百二十五條第一及第二百二十七條第一ニ依リ許可ヲ受ク可キモノトス但町村制第三十一條及第四百十四條ニ於テハ特例トシテ之ヲ郡參事會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ス又其議決ノ偏頗ニ失スルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未ダ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第二百二十八條及町村制第三百一十一條ニ依ル其他條例規則ヲ論セス公市ヲ竣テ初メテ他人ニ對シテ效力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキナリ

市制町村制第二章 市會町村會

市町村ハ法人タル者ナレハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカル可カラス其機關ニ代議、機關ト行政ノ機關トノ二者アリ代議ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今姑ク措キ往時町村ノ寄合ト稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府縣會同同ク各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ノ會議ノ大則ヲ定メタルニ過キスレテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムル所ニ任セタリ又全國ノ町村盡ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセス今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多少ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代議會ヲ設ケサルヲ許シテ代フルニ選舉人ノ總會ヲ以セリ

第一款 組織及選舉

代議機關ハ完全ナル權利ヲ有セル市町村民ノ選舉ニ出スルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ蓋國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カラサル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ考察シ傍ラ外國ノ例ヲ參酌シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一 選舉權

選舉權ハ素ヨリ完全ナル權利ヲ有スル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然ルニ此

權利ヲ擴張シ特例トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコトアリ(市制町村制第十二條)是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

二 被選舉權

被選舉權ハ選舉權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有スシト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テ假令選舉權ヲ有スルモ被選舉權ヲ有セス其他被選舉權ノ要件ヲ選舉權ノ要件ニ同クシテ別ニ之カ制限ヲ設ケサルハ適任ノ人物ヲ選擇スルノ區域ヲ徒ニ減縮セザランガ爲ナリ被選舉權ヲ與ヘサル制限ハ或ハ外國ノ例ヲ參酌シテ之ヲ取ルモノアリ或ハ地方ノ情況ニ照シテ已ムヲ得サルモノアリ又本制ニ於テハ無給ノ市町村吏員ニ被選舉權ヲ與ヘタリ市町村ノ行政事務ヲ掌ル名譽職ヲ擔任シ公共事務ニ從事スル者ヲ代議會ニ加フルヲ許スハ穩當ナラサルカ如シト雖モ地方ニ依リテハ多ク適任ノ人ヲ得可カラサルヲ以テナリ行政ト代議ト最利害ノ抵觸シ易キ場合ニ關シテハ市制第三十八條、第四十三條、第六十六條、町村制第四十條、第四十五條、第一百十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三 選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選舉人ノ等級ヲ立テ選舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ

資産アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其税額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論
セサルモ其專ラ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權カヲ有セシムルハ固ヨ
リ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ外ナラス等級
選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其
良結果アルヲ徵スルニ足ル本制被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナ
キヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラルハノ
弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ産業ニ別アリ故
ニ各地ニ通スル一定ノ税額ヲ設ケテ等級ヲ分ツコトヲ得ス又單ニ土地ノ所
有ヲ以テ選舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ス是ヲ以テ等級法ヲ立テント欲スル
ニハ市町村内ニ於テ徵收スル市町村税ノ總額ヲ標準トシ各自納税額ノ多寡
ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ良法アルヲ知ラス然ルニ市ハ通
シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戸口多ク貧富ノ階級アルコト
町村民ノ等差少キカ如キニ非サルヲ以テナリ(市制町村制第十二條)但町村
ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選舉人寡少ニシテ其税額ノ等差モ亦
少ク或ハ一二ノ納税者アリテ非常ニ多額ノ税ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ
其納税者ノ等差極メテ甚キノ類ニシテ二級選舉法ヲ適當トセサル場合モア
ル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選舉法ヲ設クルコトアル可ク或

ハ等級ヲ設ケス或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤ニ二級若
クハ三級選舉法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得已ノ事情アリテ許可ヲ受ケル
ニ非サレハ此特例ヲ設クルコトヲ得サル可シ

被選舉人ハ其區内級内ノ者ニ限ラスト爲スハ(市制第十三條、第十四條、町
村制第十三條)市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代表者タルノ原則ヨリ出ツル
モノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ

四 選舉ノ手續

選舉ノ事務タル其關スル所輕カラサルヲ以テ其細則ニ至ルマテ法律ヲ以テ
之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ屬スル事項ト雖モカメテ法律ニ之ヲ制定
スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干涉ヲ防キ或ハ
干涉ノ疑ヲ避ケンカ爲メナリ其順序大略左ノ如シ

選舉ハ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選舉トシ議員ノ半數ヲ改選ス其半數
ヲ改選スルハ事務ニ熟練セル議員ヲ存續セシメンカ爲メナリ但解散ノ場合
ハ此ノ如クスルヲ得ス又此法律施行ノ當初ニ於テ選舉セラレタル議員ハ初
回ノ改選ニ方リ抽籤ヲ以テ半數ヲ退任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職
スルモノトス此二箇ノ場合ヲ除キ議員ハ總テ六年間在職スル者トス若シ議
員任期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補闕員ヲ選舉シ前任者ノ任期
ヲ襲ガシメサル可カラス之ヲ補闕選舉トス然レトモ屢選舉ヲ行フトキハ其

煩ニ堪ヘサルカ故ニ補闕選舉ハ定期選舉ヲ待テ之ト同時ニ行フヲ通例トス
 假令一二ノ闕員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レモ若シ多數ノ
 議員退任スル等已ムチ得ス補闕員ヲ選舉スルノ必要アルトキハ市制町村制
 第十七條ニ於テ之レカ便法ヲ設ク

選舉ヲ爲スノ準備ニ屬スル事ハ之ヲ行政機關即町村長若クハ市長及市參事
 會ニ委任セリ而シテ其事務ハ選舉ノ基礎タル選舉名簿ヲ調製スルヲ以テ第
 一トス本制ハ所謂永續名簿ノ法ニ依ラス選舉ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ
 法ヲ取レリ(市制町村制第十八條)其調製シタル名簿ハ選舉前數日間關係者ノ
 縦覽ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ又ハ訴願若ク行政訴訟ノ手續
 (市制第二十五條町村制第三十七條)ヲ以テ誤テ正ス可キ便利ヲ與ヘタリ此
 名簿ノ調製ハ選舉ヨリ數日前ニ終結ス可キカ故ニ其結了ノ時ニ行ヒタル裁
 決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各訴願ノ確定終局ニ至ル迄在再日チ曠クスルヲ
 得ス選舉ノ期日ニ至レハ其訴願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ名簿ニ錯誤アルカ
 爲メ選舉ノ無効ニ歸スルコトアレハ更ニ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被選
 人當選ヲ辭シ或ハ選舉ヲ無効ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ調
 製スルヲ要セス判決ニ準據シテ舊名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ
 之レカ爲メニ更ニ關係人ノ縦覽ニ供シテ正誤申立ノ時間ヲ與フルニアラス
 唯名簿全体ノ不正ナルカ爲メ全選舉ヲ無効ナリトナシタル時ニ至テハ新簿

ヲ調製スルコト已ムチ得サルナリ

選舉ノ期日ハ町村長市參事會之ヲ定ム本制ニ據レハ選舉人ヲ召喚スルニハ
 公告ヲ以テ足レリトスト雖モ實際市町村ノ便宜ニ依リ各選舉人ニ對シ特ニ
 召集狀ヲ送付スルコトアルモ妨ケナシ其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長
 ニ任シタルヲ以テ市長町村長ハ選舉人ノ多寡及地形等ヲ參酌シテ之ヲ定ム
 可シ

選舉事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十條)監督官廳
 ハ特ニ之カ監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十八條、町村制第二十九條)而シ
 テ選舉掛ハ集議体ニ編制セリ選舉掛ハ選舉人代理者ノ許否、投票ノ効力等
 直ニ之ヲ裁決セサルヲ得シテ此ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得
 サルヲ以テナリ固ヨリ選舉掛ニ於テ右等ノ事件ヲ議決スト雖モ後ニ至リ選
 舉ノ無効ヲ申立ツル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於テハ右議決ニ拘ラ
 ス至當ノ裁決ヲ爲ス可キモノトス

選舉會ハ選舉人ニ取リテハ公會ナリト雖モ(市制町村制第二十一條)其選舉
 ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選舉掛ハ勿論其他何人ニテモ投票者ニ於テ
 何人チ選舉セントスルカチ知ラシメサルモノトス故ニ選舉ノ際ハ投票ヲ用
 ヒ票中ニ投票者ノ氏名ヲ記載セス又之ニ調印セシメス封緘シテ之ヲ差出サ
 シム(市制町村制第二十二條、第二十三條)元來公選舉ト秘選舉トノ別アリ

其利害得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選舉ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事情タル居民常ニ相密接スル者ナレハ選舉ノ自由ヲ妨クサランカ爲メニ寧ロ秘密選舉ヲ以テ良法ト爲ス而シテ選舉權ヲ有セサル者ノ投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニハ選舉人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受クルノ法(市制町村制第二十二條)アリ選舉人自ラ出頭シテ選舉ヲ行フノ例ヲ設クルハ毫モ選舉ノ利害ニ關セサル輩ノ勸告ニ依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ選舉ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條第二項ニ掲クルモノハ己ムヲ得サルノ特例ナリトス選舉ヲ行フニ下級ヲ先キニシテ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第十九條)下級ノ選舉人ヲシテ人ヲ擇フニ充分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ先ツ下級ノ選舉ヲ了ルノ後ニ上級ノ選舉ニ着手セシム可シ是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ防キ且上級ノ者ヲシテ下級ノ選舉ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムモノナリ選舉ノ結果ヲ證スルカ爲メニ選舉録ヲ製スルノ例(市制第二十六條)町村制第二十七條)アルハ選舉ノ効力ヲ裁決スル證據ヲ備ヘンカ爲メナリ

當選ノ認定ハ議員ノ選舉ニハ比較多數ノ法ヲ取り(市制第二十五條、町村制第二十六條)市町村吏員ノ選舉ニハ過半数ノ法ヲ用フ(市制第四十四條、町村制第四十六條)元來總テ過半数ヲ以テスルチ正則トスレトモ事宜ヲ計リ

テ便法ヲ設ケタルナリ

選舉ノ効力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ選舉人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其効力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府縣知事モ亦此權利ヲ有ス選舉人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ參事會ノ裁決ニ任シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス是實ニ利害上ノ争ニアラスシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十八條、第三十五條、町村制第二十九條、第三十七條)

一旦選舉ヲ有效ト定メ或ハ其効力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當選者被選舉權ノ要件ヲ選舉ノ當時ニ有セザリシコトヲ發覺シ或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條、町村制第三十條ノ結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手續市制第三十五條、町村制第三十七條ニ據ル

五 名譽職

市制町村制第十六條、第二十條、第七十五條ニ依リ名譽職ヲ置クハ本制大休ノ原則ニ出ツルナリ

第二款 職務權限及處務規程

市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依テ特ニ委任スル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則法律ニ悖反スルモノナレハ法律上ノ權カヲ以テ(市制第六十四條第二項第一、第二百二十條、町村制第六十八條第二項第一、第二百二十四條)之ヲ制セサル可カラス其他市制第百十八條、第百十九條、町村制第百二十二條、第百二十三條ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ權カナリトス

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條、町村制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六十四條第二項第七、町村制第八十八條第二項第七)即市會町村會ハ專ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以下及町村制第三十三條以下ニ列載シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生スルモノトス

一 市會町村會ハ條列規則、歲計豫算、決算報告、市町村稅賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制第百十八條、第百十九條、町村制第百二十二條、第百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上司ノ許可ヲ得可キモノハ市制第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至リ及町村制第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ルノ各條ニ依ル

二 市會町村會ノ執行ス可キ選舉ハ載セテ市制第三十七條、第五十一條、第五十八條、第六十條、第六十一條及町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條ニ在リ

三 市會町村會ハ市町村ノ行務ヲ監査スルノ權利ヲ有ス其監査ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應スルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ具狀スルコトヲ得可シ

四 市會町村會ニ於テ官廳ノ諮問ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリトス

五 其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始審ノ裁決ヲ爲スノ權アリ(市制第三十五條、町村制第三十七條)

市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不羈ノ精神ヲ以テ事ヲ評議ス可シ決シテ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可キモノニアラス(市制第三十六條、町村制第三十八條)是固ヨリ法理ニ於

テ明ナル所ナリト雖モ議員ノ職務ヲ以テ選舉人ノ委任ニ出ツルモノ、如ク
 視做シ議員ハ選舉人ノ示シタル條件ヲ恪遵ス可キモノト爲スノ誤ヲ來サ、
 ランカ爲メ特ニ其明文ヲ掲クルナリ
 處務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町村制第三十九制ヨリ第
 四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概テ說明ヲ要セサル可シ只
 茲ニ一言ス可キハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長
 トシ(町村制第二十九條)市會ハ別ニ互選シテ議長ヲ置ク(市制第三十七條)
 此區別ヲ爲シタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者
 多カラスシテ殊ニ議長ノ任ニ堪フル者ハ概テ少ク且一人一個ノ責任ヲ以テ
 行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムル
 コト必要ナレハナリ町村制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシ
 テ議決權ヲ有スルハ其議員ヲ兼スル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章 市町村行政

代議ト行政トハ各別個ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタル
 カ如シ而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員即助役一名若クハ
 數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其
 會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權
 ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取り市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政

ニハ集議制ヲ以テスルニ若クモノアラス然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ
 適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而
 シテ小町村ノ行政ハ力メテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制
 ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メサル
 ヲ得ス而シテ此事タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非サレハ望ム可カラサ
 レハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要アリヤ否又之ヲ施行
 シ得可キヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハ力メテ活用ノ區域ヲ廣クシ以テ各地方ノ情況ヲ酌
 酌スルノ餘地アラシメンコトヲ務メタリ

町村長、助役、市參事會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ國ニ直隸スル機關
 ニアラス是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ市町村自ラ之ヲ選任スルヲ當
 然トス是各國ノ通則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ著ハル、所ナレハ本制モ
 亦之ニ倣ヘリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十
 一條、町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)
 然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係ヲ
 及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セサルコトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ
 國政ニ屬スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條、町村制第六十九條
 ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ裁可ヲ求ムルノ例アル

カ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十條)但其選任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一面ハ國ニ隸ス猶町村長ノ町村ト國トニ兩屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコトナシ其他樞要ノ市町村吏員即町村長、市町村助役、收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其選舉ハ無効ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條、第五十八條、町村制自第五十九條、至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セザランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サス其地ノ事情ト人物トヲ參酌シテ其認可不認可ヲ決スルヲ得セシメントス其裁決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準シ之ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カンカ爲メ若クハ偏私ノ誹ヲ免レンカ爲メニ其認可ヲ拒マントスルトキハ郡參事會又ハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設クルトキハ其結局ノ處分法ナカル可カラズ即其選舉途ニ適任ノ人ヲ得スシテ已ムヲ得サルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特選シ若クハ官吏ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ選舉ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルモ國ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ憂フ可キノ弊ナキヲ信ス

町村ニ於テ官員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ町村會若クハ總會ニ委任シ唯使丁ニ限リ之ヲ町村長ニ委任シ(町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ委任シ參事會員、委員及收入役ノ選任ニ限リ之ヲ市會ニ委任セリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條)

市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セサル可カラズ其要件ハ市制第五十五條、第五十八條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第五十六條、第六十四條、第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存ス

其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ廣濶ナル餘地ヲ與フルコトヲ得可ク又之ヲ與フルヲ要スルナリ

本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セリト雖モ(例ハ町村制第一百二條ノ類)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケサル可カラズ其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任アリ故ニ一方ニ在テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ヒ

一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内ニテ發シタル命令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町村ノ幸福ヲ増進シ安寧ヲ保護スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ決議ニ遵依ス可キ程度ハ町村制第三十三條以下ニ詳ナリ同條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ議會ノ議決ニ依ラスシテ之ヲ施行スルコト能ハサル而已ナラス猶其議事ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背戻スルコトナク其權限内ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セサルヲ得ス唯町村長其議決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニシ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議決ノ執行ヲ停止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越ユルモノモ亦之ニ同シ尤僅ニ利害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未ダ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害スト認ムル時ニ限ル可シ蓋公益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖也今日町村治ノ未ダ整備セサルヨリ考フルトキハ姑ク此例ヲ存スルノ己ムヲ得サルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止ヲ命スルハ國ノ利害ニ關シ己ムヲ得サルモノニシテ監督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサルヘシ其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ參事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得ヘシ其行政裁判所へ出訴スル

ノ權ヲ法律勅令ニ背戻シ及權限ヲ踰越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ハ專ラ法律上ノ爭論ヲ判決スヘキモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ爭ニ過キサレハナリ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ內務大臣ニ訴願スルヲ得ヘキコト町村制第十九條及第二百十條ノ規則ニ依テ明ナリ其他町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第二ヨリ第九ニ列載シタル條件ニ依テ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ説明ヲ要セサル可シ町村會ノ定額豫算ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權限ニ制限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ説明ス可シ又町村會ノ議決町村制第二百五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ク可キモノハ之ヲ受クルノ前ニ施行スルヲ得サルコト固ヨリ言ヲ俟タス且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ

町村制第六十九條ニ列記シタル事務ニ關シテハ町村長ハ全ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章ニ記述シタル如ク國ハ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法ニテ國政ニ關スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セシメテ直接ニ町村長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ緊要ナル點ハ第一ノ例ニ據レハ斯ル事件ノ議決モ亦町村會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ當該吏員ハ此事件ニ關

シ町村會ニ對シテ責任ヲ帶ヒ且常ニ其監視ヲ受クルモノトシ第二ノ例ニ據レハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セス此事務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ照シ事務ノ舉行ヲ期スルニ付テハ乙法ヲ行フニ如カス故ニ本制ハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ涉ルモノハ別法ニ讓ラントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職務ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セサルヲ得ス依テ同條末項ニ之ヲ掲ク其他町村固有ノ事務ニ要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔スヘキコト言フ俟タスシテ明ナリ

二 町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置クヲ通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應シテ或ハ之ヲ増加スヘキコトアリ之ヲ町村條例ノ定ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集議體ヲ爲スニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ輔佐スルモノトス唯町村長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ專任スル場合ニ限り自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スルニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ(町村制第七十條)其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

ス(町村制第六十九條)

三 市參事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ置クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ名譽職參事會員若干名ヲ置キ合セテ集議體ヲ組織シ之ヲ市參事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職參事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ増減ヲ要スルトキハ市條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得ヘシ(市制第四十九條)市長ハ一個ノ決議權ヲ有シ員數相半スル時ハ專任スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ至ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ說明ハ茲ニ要セサルヘシ其處務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制自第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアルヘシ

市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ事務ヲ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス即チ市ノ固有ノ職務ニ就テハ參事會ノ議事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テハ議決ノ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代表スルモノニシテ唯急施ヲ要スル場合ニ限り議決ヲ俟タスシテ專行スルコトヲ得ヘシ(市制第六十八條)然レモ市制第七十四條ニ列載スル委任ノ事務ニ就テハ參事會ノ參與ヲ受ケスシテ專行スルモノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取り之ヲ市ニ委任セスシテ特ニ市長ニ委任シタル

ニ依ル

市助役及其他ノ參事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ議權ヲ有スト雖正議事外ニ在テハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制第六十九條、第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ於テハ分業ノ必要ナルヘキヲ以テ事務ヲ分テ參事會員ニ專任セシムルコト最緊要ナリトス此需要ニ應センカ爲メ本制ハ之ヲ市條例ノ適宜定ムル所ニ譲リ(市制第六十九條第二項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四 委員

委員ヲ設クルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最効益アリ委員アルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニ力ヲ竭スコトヲ得セシメ自沼ノ効用ヲ擧クルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラス委員ノ列ニ入りテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得ヘシ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ專務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ設ケヲ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ムヘシ委員ノ廢置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正系ノ行政機關ニシテ委員ハ

其一部分ニ參與スルニ過キサレハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概テ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市會町村會議員モ亦成ルヘク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市會町村會ノ議員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軌轢ヲ防制スルコトヲ得ヘシ

五 區長

區域廣濶又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ランカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アルヘシ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隸屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサレハ(三府ヲ除クノ外)實際此事情ヲ斟酌セサルヘカラス要スルニ區ハ市町村内別ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス、財産ヲ所有セス、歲計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設クルト

キハ施政ノ周到ナルヲ得可ク、一市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軋轢スルヲ
調和シ、市町村費賦課ノ不平衡ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節省スルヲ得可
シ要スルニ區長ヲ設クルハ更ニ自治ノ良元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニ
シテ舊制ノ伍長組長等ノ例ヲ襲用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戸長ノ類
ト混ス可カラス又區ニシテ從來固有ノ財産アル時ノ例ハ第五章ノ說明ニ詳
述ス可シ

六 其他ノ市町村吏員

以上市町村吏員ノ外收入役アリ(市制第五十八條、町村制第六十二條)其職
掌ハ市町村有財産ト連帶シテ説明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員ア
リ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料
ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第一百七條、町村制第二百一十一條)
町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制
ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從
ヒ書記ノ事務ヲ保擔スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ム
ルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町村制第六十二條第一項)若シ町村
長ニ於テ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ郡參
事會ニ申立ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セス蓋書記料ヲ給與
スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ監督官廳モ亦

能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ就示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減
センコトヲ務メサル可カラス要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設
ケ從テ從來ノ町村費ヲ節減センコトヲ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ
節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ監督官廳ニ於テハ即チ
之ニ干涉スルノ道アリ

市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧
問、土木工師、建築技師、衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル
可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テシ或ハ市町村吏員ト爲ス
コトアル可シ又時宜ニ依リ之ヲ有給ノ助役トシテ任用スルノ便アリ本制ハ
此件ニ關シテハ全ク市町村ノ自由ニ任セントス尤警察、學事等ノ爲メニ特
別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ皆是別法ヲ以テ定ム
可キモノナリ

市町村ノ公務ニ任スル者ハ名譽職ト專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於
テ主トシテ名譽職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ
於テ名譽職ト爲ス可キコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必之ニ遵依
ス可シ決シテ有給職ト爲スヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ名譽職ニ屬スルモ
ノト雖モ大市町村ニ在テハ專務吏員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特
別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並事務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ

以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給吏員ト爲スチ常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給吏員若クハ無給吏員ヲ置クヘキモノトス

今本制ニ於テハ市長市助役市町村收入役及市町村附屬員使丁ハ皆專務吏員ト爲ス可キ者トス町村長町村助役ハ名譽職ト爲スチ原則トスト雖モ町村ノ情况ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スチ得セシム(町村制第五十五條、第五十六條)市參事會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ名譽職トス但三府ノ區長ハ有給吏員ト爲スコトアル可シ

專務吏員及名譽職吏員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲サ、ルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ラス法律ニ準據シテ所屬ノ官廳及市町村廳ニ對シテ從順ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長及市參事會(町村制第六十八條第二項第五、市制第六十四條第二項第五)及監督官廳(郡長、府縣知事)ノ任トス(町村制第二百二十八條、市制第二百二十四條)懲戒ノ罰トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

- 一 譴責
- 二 過怠金
- 三 解職

譴責又ハ過怠金ニ處スルハ當該吏員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク當該吏員ノ裁決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是專ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴肅ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラス(但隨時解職シ得可キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セルノミナラス(但行狀ヲ紊亂シ廉耻ヲ失フトハ公務上ニ止マラス私行ニ關スルコトモ含蓄スルモノナリ)郡參事會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第二百二十四條、町村制第二百二十八條)

專務吏員及名譽職吏員トモ職務上大率チ同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ深ク其性質ニ就テ考フルトキハ互ニ相異ナル所アリ專務職ヲ辭スルハ吏員ノ隨意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之レニ應セサルヲ得ス其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルノ義務アルト否トニ付テモ亦此差別アリ(市制第八條、第五十五條第三項、町村制第八條、第五十七條)又市制第五十六條、第五十八條及町村制第五十八條、第六十二條ノ制限ノ如キハ專務吏員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ス市制第五十九條、町村制第六十二條ニ記載シタル吏員ハ其任用ノ時此等ノ關係ヲ約定スルチ可トス有給職ニ任用スルニ其市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ選擇ノ區域ヲ減縮セサランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給吏員ニハ其職ニ就クト同時ニ其市町村ノ公民權ヲ付

與スルコト當然ナリ(市制第五十二條、第五十八條、町村制第五十六條第二項)専務吏員ハ一身ノ全カヲ擧ゲテ市町村ノ爲メニ盡ス可キヲ以テ相當ノ給料ヲ受クルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セス(市制町村制第七十五條)尤市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ス唯其名譽職ノ事務頗ル繁忙ニシテ本業ヲ妨ケラレトキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其額ハ固ヨリ勤勞ニ相當セサル可カラズ此規則ハ町村長(町村制第五十五條第二項)ハ勿論町村助役及名譽職市參事會員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十八條第三項、町村制第五十五條第二項)ノ爲メニ之ヲ設ク其報酬額ハ市町村會之ヲ議定シ(市制町村制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制町村制第七十八條ニ依テ處分シ司法裁判ヲ求ムルヲ許サス

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職重クレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干涉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ任シ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ選任ノ前ニ方ヲ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レモ監督官廳ハ斯ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ認可ヲ拒ミ所屬ノ參事會ヲ以テ之ヲ斷定セシムルノ權利アリ

有給市町村吏員ニハ退隱料ヲ給スルコト當然トス然レモ市町村吏員ニ對シテ官吏ノ恩給令ヲ適用スルコトヲ得ス是其地位ノ異ナルノミナラス市町村吏員ハ定期ヲ以テ選任セラレ任期限ノ後ハ再選若クハ再任ヲ受クルニ非レハ其職ニ在ラサルヲ以テナリ若シ其吏員任期限後再選若クハ再任セラレサルトキハ遽ニ糊口ノ道ヲ失フニ至ル可シ故ニ此結果ヲ防クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ屑シトセサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ輩ヲシテ常ニ市町村會ノ鼻息ヲ窺ヒ以テ公益ヲ忘レシムルコトナレトセス加フルニ市町村ノ職務ハ昇等増給ノ途少キヲ以テ其退隱料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レモ目下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メンヨリハ寧ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルニ若カサルナリ

有給ト無給トヲ論セス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔タルコト疑ヲ容レスト雖モ之カ明文ヲ掲グルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町村制第八十條)

市町村ト吏員トノ間ニ起ル給料及退隱料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セス市制町村制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保護ハ此方法ヲ以テ足レリトス結局ニ至テ猶注意ス可キコトアリ抑退隱料ノ規則ヲ設クルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ恐アリト雖モ他國ノ實験ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲ス者ニアラス市町村ニ於テハ多クハ適任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再選ヲ受

ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メサル者アラサル可シ故ニ實際退隱料ヲ支出スルノ場合ハ甚少ナル可キナリ又一方ヨリ論スルトキハ市町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルト得サルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト否トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退隱料負擔ノ如キハ之ヲ重シト謂フ可カラス況ヤ有給ノ町村長助役ヲ設ケサル町村ニ於テハ此負擔ヲ受クルノ場合少キニ於テチヤ又況ヤ名譽職ヲ設ケルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少ス可キニ於テチヤ蓋市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來ニ期望ス可キナリ

市制町村制第四章 市町村有財産ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可ラス故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支辨スルノ道ヲ設ク可シ即市町村ハ財産權ヲ有スルコト概テ一個人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一個人又ハ私立組合ノ類ト相對ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大半ハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對シテ其義務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ沉論スルトキハ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニシテ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト謂フ可シ而シテ之ニ二様ノ制限アリ第一市町村ノ資力ハ大ニ國家ノ消長ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラズ第二政府ハ

市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ抵觸セサラシメ之カ爲メニ國ノ財源ヲ潤渥セサランコトヲ務メサル可カラズ故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立法ノ範圍ニ入レ立法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ恪遵セシム可キ而已ナラス其經濟上ノ處分荷モ國ノ利害ニ關涉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六章并町村制第四章及第七章ニ載ス抑市町村ノ經濟ニ對シ政府ノ干涉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過クルトキハ其弊ヤ遂ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ進テ幸福ヲ求ムルノ道ヲ阻碍スルヲ免レサラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來ノ慣行アリテ遽ニ之ヲ變シ難キモノアリ故ニ漸ク以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルヲ是ナリトス此點ニ於テハ本制ハ最慎重ヲ加ヘ今日ノ情勢ニ照シテ適度ヲ得タリトスル所ヲ以テ制定セリ

市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ認ムル所ナレハ市町村ノ財産ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑ヲ容レズ而シテ市町村財産ニ二種ノ別アリ(甲)市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ貸渡料、營業ノ所得、市町村稅及手數料等ノ如キ是ナリ又基本財産ト稱スルモノアリ基本財産ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其原物ヲ消耗セサルモノ

トス蓋此區別ヲ立ツルハ市町村ノ實力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ緊要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財産ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラス且經常歳入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金穀ノ如キハ成ル可ク經常歳費ニ充テシメサルヲ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其費途ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ(市制第八十一條、第二百二十三條第二、町村制第八十二條、第二百二十七條第二)(乙)凡市町村ノ財産ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ言テ俟タス故ニ特ニ之ヲ法律ニ掲載スルヲ要セスト雖モ若シ住民中其財産ニ對シテ特別ノ權利ヲ有スル者アルトキハ自ラ其證明ヲ立ツルノ義務アリ即民法上其證明ヲ認ムルニ於テハ特別ノ權利ヲ有スルモノトシ其證明ナキモノハ即一般ノ使用權アルモノトス(市制町村制第八十二條)

市町村ノ所有ニ屬スル不動産ノ使用ヲ直接ニ住民ニ許スハ從來ノ實例少シトセス故ニ其舊慣アルモノハ特ニ之ヲ存シ今ヨリ後ハ概シテ新ニ使用ヲ許スヲ禁セリ(市制町村制第八十三條、第八十四條)又一方ニ於テハ使用權ニ相當スル納稅義務ヲ定メ(市制町村制第八十五條)且條例ニ依リ使用者ヨリ金圓ヲ徵收スルコトヲ許セリ(市制町村制第八十四條)然レトモ其使用ヲ許シタル物件ハ元來市町村ノ所有物ニシテ使用ノ權利ハ市町村住民タル資格ニ隨伴スルモノナレハ市町村ハ固ヨリ使用權ヲ制限シ若クハ取上クルノ權利ナカル可カラス(市制町村制第八十六條)但其議決ハ上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ(市制第二百二十三條第四、町村制第二百二十七條第四)細民無產ノ徒ノ不利トナル可キモノヲ防カンカ爲メナリ之ヲ要スルニ以上ノ規定ハ市町村住民タル資格ニ附隨スル使用權ニノミ用フルモノニシテ民法上ノ使用權ニハ關係ナキモノトス蓋此使用權ハ民法ニ據テ論定ス可キモノニシテ其爭論モ亦司法裁判所ノ判決ニ屬ス可キモノトス而シテ前段ノ使用權ニ關スル爭論ハ市制町村制第五條ニ依テ處分ス可キナリ

市町村財産ノ管理ハ町村長及市參事會ノ擔任トス(町村制第六十八條、市制第六十四條)其管理上市町村會ノ議決ニ依ル可キハ町村制第三十三條、市制第三十一條及市制町村制第八十七條等ニ於テシ又上司ノ許可ヲ受ク可キ條件ハ載セテ市制第二百二十三條、町村制第二百二十七條等ニ在リ

市制村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡サシムルノ權利ナカル可カラシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ上既ニ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサル可カラス其事業ハ全國ノ公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍事、警察、教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規定

ス可キモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ茲ニ枚舉スルニ暇アラスト雖モ農業經濟、交通事務、衛生事務等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要ナル事項ハ悉ク共同事務ニ屬ス可キナリ本制ニ於テ設ケタル委任ノ國政事務ト固有ノ事務即共同事務トノ區別ハ專ラ市町村長ノ地位ノ兩岐ニ分ル、所ニシテ且市町村ノ必要事務ト隨意事務トノ區別ヲ立ツルノ根據トナルモノナリ即此區別ハ官權ノ及フ可キ限界ヲ立ツルニ在リテ必要事務ハ監督官廳ニ於テ強制豫算ノ權利(市制第百十八條、町村制第百二十二條)アルモノトス而シテ必要事務トハ委任ノ國政事務ハ勿論共同事務中市町村ノ需要ニ於テ關ク可カラサルモノニ限リ必要事務ト謂フヲ得可シ市制町村制第百十八條ノ規定ハ實ニ此精神ニ出テタルモノニシテ市制第百十八條、町村制第百二十二條ニ云フ所ノモノモ亦同シ此ノ如キ規定アルトキハ共同行政上ノ事件ニ至ルマテ市町村ノ意向ヲ顧ミスシテ負擔ヲ受ケシムルコトヲ得從テ官ノ監督權ハ重キニ過クルノ恐アリト雖モ一方ヨリ考フルトキハ全ク檢束ヲ解キテ市町村ノ自由ニ任スルハ却テ將來ノ爲メ顧慮スル所アリ故ニ市町村ノ公益上已ムヲ得サルモノハ姑ク市町村會ノ意見ニ拘ラス監督官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ執行スルノ權利ヲ存セサルヲ得ス但其處分ニ對シテハ上訴ヲ許シタルヲ以テ專制ノ弊ヲ免ル、ヲ得可シ其他必要ノ支出ハ本制市町

村ノ組織ニ關スル條件中ニ含有セリ隨意事務ニ就テハ市町村ニ十分ノ自由ヲ與フト雖モ若シ過度ノ負擔ヲ爲スニ至テハ之ヲ制スルニハ市制第百二十三條第六、町村制第百二十七條第六ノ規定ヲ適用スルヲ得可シ市町村ニ於テ其費途ヲ支辨スルカ爲メニ左ノ歲入アリ

- 一 不動産、資金、營業(瓦斯局、水道等ノ類)ノ所得
- 二 市町村ノ金庫ニ收入スル過怠金、科料(市制第四十八條、第六十四條第二項第五)第九十一條、第百二十四條、町村制第五十條、第六十八條第二項第五、第九十一條、第百二十八條)

三 手数料、使用料

四 市税、町村税

手数料トハ市町村吏員ノ職務上ニ於テ一箇人ノ爲メ特ニ手数料要スルカ爲メ市町村ニ收入スルモノヲ謂ヒ使用料トハ一箇人ニ於テ市町村ノ營造物等ヲ使用スルカ爲メ其料金ヲ市町村ニ收入スルモノヲ謂フ例ヘハ手数料トハ帳簿記入又ハ警察事務上ニ於テ特ニ調査ヲ爲ストキノ收入ヲ謂ヒ使用料トハ道路、橋、鐵道等ノ類ヲ謂フ

手数料、使用料ノ額ハ法律勅令ニ定ムルモノ、外市町村會ノ議決ヲ以テ定ムヘキモノナリ(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)尤市町村條例ヲ以テ一般ノ規定ヲ設ケ(市制町村制第九十一條)其地ノ慣行ニ依リ相當

ノ手續ヲ以テ公告スヘキモノトス
 且若シ手数料使用料ヲ新設シ又ハ舊來ノ額ヲ増加シ又ハ其徵收ノ法ヲ變更
 スルトキハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第百二十二條第二、
 町村制第百二十六條第二)但徵收ノ法ヲ改ムルコトナクシテ唯其額ヲ減ス
 ルニ過キサルトキハ其許可ヲ受クルヲ要セス
 手数料ヲ納ムルノ義務アルハ行政上ノ手数料ヲ要スル者ニシテ使用料ヲ納ム
 ルノ義務アルハ營造物等ヲ使用スル者トス之ヲ免除スルハ市制町村制第九
 十七條、第九十八條ノ場合ニ限ル可シ第九十六條ノ場合ハ町村ノ課稅ヲ免
 除スルニ止リテ手数料、使用料等ノ事ニ及ハサルナリ
 町村稅ニ關シテハ本制ハ成ルヘク現行法ヲ存スルノ精神ナリ町村稅ヲ十分
 ニ改正セントスレハ先ツ國稅徵收法ヲ改正セサル可カラズ故ニ本制ニ於テ
 ハ現行ノ原則ニ依リ多少ノ修補ヲ加ヘタルニ過キス現今町村費ノ賦課目即
 地價割戸別割營業割等ノ如キ皆國稅府縣稅ニ附加シテ徵收スル者ニ外ナラ
 ス又或ハ特別ノ町村稅アリ故ニ本制ニ定ムル所ノ課目ハ現行ノ課目ヲ存ス
 ルニ於テ妨ケナキモノナリ
 附加稅トハ定率ヲ以テ國稅府縣稅ニ附加スルモノニシテ納稅ノ負擔ニ偏輕
 偏重ノ患ナカラズシシカ爲メニ其準率ヲ均一ニスルヲ例則トセリ(市制町
 村制第九十條)其賦課法ヲ定ムルハ市町村會ノ職權ニ屬ス故ニ市町村會ハ

隨時ノ議決又ハ豫算議定ノ際ニ之ヲ議決スヘキナリ若シ此例則ノ外ニ於テ
 課法ヲ設ケント欲スルトキハ郡參事會(町村制第百二十七條第七)若クハ府
 縣參事會(市制第百二十三條第七)ノ許可ヲ受クルヲ要ス
 稅率ノ定限ハ豫メ之ヲ設ケスト雖モ獨リ地租及直接國稅ニ於テハ市制第百
 二十二條第三、町村制第百二十六條第三ニ定メタル制限ヲ越セントスルト
 キハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス是レ國庫ノ財源ニ關係スル所ア
 ルヲ以テナリ就中地租ノ如キハ從前此定限ヲ超過スルヲ得ルハ非常特別ノ
 場合ニ限レリ而シテ特別許可ノ道ヲ存セサルカ如キハ地方ニ依テハ却テ課
 稅ノ平均ヲ得サルノ弊アリ是レ本制現行ノ例ヲ移シテ多少ノ便法ヲ開キタ
 ル所以ナリ間接稅ハ概シテ市町村ノ附加稅ヲ課スルニ便ナラス故ニ市制第
 百二十二條第四及ヒ町村制第百二十六條第四ニ從ヒ渾テ官ノ許可ヲ要ストセ
 リ各種國稅府縣稅ノ内何レヲ直稅トシ又何レヲ間稅トス可キカハ往々疑點
 ヲ生スルコトアリ此區別ニ就テハ今内務大藏兩省ノ省令ヲ以テ之ヲ定ムル
 コトトセリ(市制第百三十一條、町村制第百二十六條)
 附加稅ノ特別稅ニ優ル所以ノモノハ附加稅ニ在テハ納稅者既ニ國稅又ハ府
 縣稅ノ賦課ヲ受クルヲ以テ別ニ其收益等ノ調査ヲ爲スヲ要セサルニ在リ唯
 其町村稅ハ免除セサルモ國稅府縣稅ノ賦課ヲ受ケサル者(一箇人又ハ法人)
 ニ限り更ニ其調査ヲ要ス可キニ付此場合ニ於テハ町村長若クハ市參事會ニ

於テ其國稅府縣稅徵收ノ規則ニ據リ其調査ヲ爲サ、ル可カラス
 特別稅ハ市制町村制第九十一條ニ從ヒ條例ヲ以テ之ヲ規定セサル可カラス
 此點ニ於テハ既ニ手數料ニ就テ説明シタル所ニ同シ但特別稅ハ市町村必要
 ノ費用ヲ支辨スルニ附加稅ヲ以テシ猶足ラサルトキニ限り始メテ之ヲ徵收
 スルモノトス(市制町村制第九十條)
 市町村稅ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スル者ニ就テハ一箇人ト法人トヲ區別セザ
 ル可カラス即チ左ノ如シ

甲 一箇人

凡ソ納稅義務ハ市町村ノ住民籍ニ原クモノトス(市制町村制第六條第二項)
 故ニ此義務ハ市町村内ニ居住ヲ定ムルト同時ニ起ルモノナリ故ニ一旦住居
 ヲ定メタル者ハ時々他ノ市町村ニ滞在スルコトアリト雖モ納稅義務ヲ免ル
 ヘキニ非ス若シ之ニ反シテ住居ヲ定メスシテ一時滞在スルニ止マルモノハ
 未タ此義務ヲ帶ヒス唯三ヶ月以上滞在スルトキハ住居ヲ占ムルト同ク納稅
 ノ義務ヲ生スルモノトス(市制町村制第九十二條)又假令ヒ市町村内ニ住居
 若クハ滞在セスト雖モ其市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營
 業ヲ爲ス者ハ均ク其市町村ノ利益ヲ蒙ルニ依リ共ニ納稅ノ義務アリトス但
 此義務ハ一般ノ負擔ニ涉ラスシテ唯其土地家屋營業若クハ是ヨリ生スル所
 得ニ賦課ス可キ市町村稅ニ限りテ負擔ノ義務アルモノトス(市制町村制第

九十三條)住居ト滞在トハ常ニ必ス同一ニ歸セサルヲ以テ或ハ重複ノ課稅
 ヲ受クルノ患ナシトセス此弊害ヲ防クカ爲ニハ則チ市制町村制第九十四
 條、第九十五條ノ規定アリ他國ニ於テハ往々住居ヲ定ムル市町村ニ特權ヲ
 與フルノ例アリト雖モ本制ハ特ニ此例ニ倣ハス要スルニ此ノ如キハ皆施行
 規則中ニ適宜ノ便法ヲ定ム可キコトトス

市町村稅ノ免除ヲ受クルハ市制町村制第九十六條、及第九十八條ニ掲載シ
 タル人員ニ限レリ

乙 法人

法人ハ市制町村制第九十三條ニ從ヒ唯其所有ノ土地家屋若クハ之ニ依テ生
 スル所得ニ賦課スル市町村稅ニ限り納稅ス可キモノトス抑法人トハ政府、
 府縣(郡)モ亦郡制制定ノ上ハ法人ト爲スノ見込ナリ)市町村、公共組合(例ハ
 ハ水利土功ノ組合、社寺宗教ノ組合ノ類)慈善協會、其他民法及商法ニ從ヒ
 法人タル權利ヲ有ス可キ私法上ノ結社ヲ謂フ其私法上ノ結社ハ市制町村制
 第九十七條ノ免稅ノ部ニ入レス又官設ノ鐵道電信ノ如キハ官ノ營業ニ屬ス
 ト雖モ是等ハ特ニ國家ノ公益ノ爲ニ免稅トス(市制町村制第九十二條)私設
 鐵道ニ至テハ各市町村ニ於テ其收益ヲ調査スル頗ル難キヲ以テ施行規則中
 ニ於テ詳ニ之ヲ規定スルヲ要ス

凡ソ納稅義務者ニ課稅スルハ總テ平等ナル可キナリ唯市制町村制第八十五

條ハ此例外トシテ使用ノ土地物件ニ係ル費用ヲ其使用者ニ課セリ又一市町村ノ數部若クハ數區ニ分レタルトキ其一部一區ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ其一部一區ノ負擔トセリ(市制町村制第九十九條第二項)尤其一部一區ニ特別ノ財產アルトキハ先ツ其收入ヲ以テ其費用ニ充テ猶足ラサル時特別ニ其一部一區ノ人民ニ課稅シ又ハ一般全市町村稅中ニ區別チ立テ其進率ヲ高クス可シ之ニ反シテ第九十九條第一項ノ場合ニ於テ數個人ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ必其數個人ノ負擔トシ之ヲ他人ニ賦課スルコトヲ得サルモノトス但市町村稅ハ總テノ納稅義務者ト平等ニ賦課スルヲ以テ例則ト爲スカ故ニ若シ此例則ニ違ハントスルトキハ官ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第二百二十三條第八、町村制第二百二十七條第八)

各納稅者ノ稅額ヲ査定スルハ法律規則ニ依リ市制町村制第百條ノ規定ニ從ヒ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス大ナル町村及市ニ於テハ之カ爲メ專務ノ委員ヲ設クルヲ便宜トス

社會經濟法ノ稍進歩シタル今日ニ在テハ舊時ノ夫役現品ニ代ヘテ金納法ヲ行フニ至レリ然レトモ町村費ノ課出ニ於テハ夫役現品ノ法ヲ存スルハ特ニ必要ナルノミナラス住々便利ナルモノアリ且古來ノ慣行今日ニ傳フル者其例少カラス夫役賦課ハ專ラ道路、河溝、堤防ノ修築、防火水又ハ學校、病院ノ修繕等ノ爲メニ行フモノナリ殊ニ村落ニ在テハ農隙ノ時ヲ以テ夫役ヲ課ス

ルトキハ租稅ノ負擔ヲ輕減センカ爲メニ大ニ便益トスル所アリ農民ノ如キハ期節ニ依リ夫役ニ應スルヲ得ルノ間隙アルコト市民ト其趣チ異ニス且地方道路ノ開通ヲ要スルモノ將來必少カラサル可キヲ以テ夫役賦課ノ法ヲ存スルトキハ幾許カ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ效アルコト必セリ依テ市制町村制第百一條ニ於テ市町村ニ許スニ夫役賦課ノ法ヲ以テセリ但此點ニ於テハ今日ノ經濟ニ適應セシメンカ爲メ本制ハ本人自ラ其役ニ從事スルト適當ノ代理者ヲ出シ又ハ金額ヲ納ムルトキ以テ義務者ノ選擇ニ任セリ其金額ニ算出スルハ其地ノ日雇賃ニ準シ日數ヲ以テ等差ヲ立ツルヲ通例トス唯火災水害等ノ如キ急迫ノ場合ニ於テハ金納ヲ禁スルコトヲ得可シト雖ヒ代人ヲ出スハ本人ノ隨意ニ在ルモノトス

夫役ハ總テ市町村稅ヲ納ム可キ者ニ賦課シ其多寡ハ直接市町村稅ノ納額ニ準スルモノトス若シ此進率ニ依ラサルトキハ郡參事會(町村制第二百二十七條第九)及府縣參事會(市制第二百二十二條第九)ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此場合ノ外ハ總テ市町村限り許可ヲ受ケスシテ之ヲ賦課スルコトヲ得可シ

一般ニ夫役ヲ賦課スルト賦課セサルト及夫役ノ種類并範圍ヲ定ムルハ市町村會ノ職權(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)ニ屬シ之ヲ各個人ニ割賦スルコトハ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六

十四條第八ノ擔任トス

以上市町村ノ收入ハ皆公法上ノ收入ニ屬スルモノニシテ其徵收ハ市制町村制第百二條ヨリ第百五條ニ準據スヘキモノトス而シテ其賦課徵收上ノ不服ハ司法裁判所ニ提出スルヲ許サス郡參事會府縣參事會ノ裁決ヲ經テ結局ノ裁決ハ行政裁判所ニ屬ス此公法上ノ收入ハ私法上ノ收入ト相混同スヘカラス例ヘハ市町村有ノ地所ヲ一個人ニ貸渡シタルトキ其借地料ハ民法及訴訟法ニ準據シテ徵收スヘキナリ

將來市町村ノ事業漸ク發達スルニ從ヒ經常ノ歲入ヲ以テ支辨スルコト能ハサル所ノ大事業ノ起ルヘキハ勢ノ免レサル所ナリ然レトモ豫メ其費用ニ備ヘンカ爲メ資本ヲ蓄積セントスルコトモ亦極メテ難カルヘシ故ニ經常歲入ヲ以テ支ヘ能ハサル所ノ需要ニ應ゼント欲スレハ市町村チレテ豫メ將來ノ歲入ヲ使用スルコトヲ得セシムルノ道ヲ開クノ外ナカルヘシ即公債募集ノ方法是ナリ抑公債募集ノ利益ハ收入時期ノ未タ到來セサルニ先テ豫メ歲入ヲ使用シテ以テ町村住民ノ爲メニ大事業ヲ起シ其經濟及納稅力ヲ獎誘シ且以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在ルナリ公債ノ事タル利益ノ在ル所斯ノ如シト雖モ之ニ伴フ所ノ弊害モ亦自ラ免レサルモノアリ若シ市町村ニ於テ此方法ニ依リ豫メ將來ノ歲入ヲ使用スルトキハ則其元利償却ニ充ツル所ノ金額ハ將來ノ歲入中ヨリ減却スルモノナレハ負債額ノ多寡ト償還期限ノ長短

トニ從ヒ市町村ノ財政ニ影響スル所少カラス又市町村會ニ於テハ資本ノ得易キカ爲メニ輕忽ニ其市町村ノ實力ニ相當セサル事業ヲ起スノ傾向ヲ爲シ又ハ今日ニ負擔ス可キノ義務ヲ漫リニ後年ニ傳ヘントスルノ弊害ヲキコト能ハス是最モ行政官ノ注意ス可キ所ニシテ市制第百六條、第百二十二條第一及町村制第百六條、第百二十六條第一ノ規定アルハ以上ノ論旨ニ起因スルモノトス

本制ハ公債募集ノ事項ヲ逐一列舉セス唯已ムヲ得サルノ必要若クハ永久ノ利益ト云フヲ以テ之レカ制限ヲ立テタリ若シ此制限ニ適合スルノ證明ナキモノハ許可ヲ與フ可カラス若シ又償還期限三年以内ニシテ許可ヲ要セサルモノハ町村制第六十八條第一及市制第六十四條第一ニ依テ相當ノ處分ヲ爲ス可キナリ其必要已ムヲ得サルノ支出トハ舊債ヲ償還シ又ハ傳染病流行若クハ水害等不慮ノ災厄ニ遭遇シテ一時ノ窮ヲ救ハントスルトキ又ハ學校ヲ開設シ道路ヲ修築スル等法律上ノ義務ヲ盡サントスルカ如キ場合ヲ謂ヒ永久ノ利益トナル可キ支出トハ市町村ノ力ニ堪フ可キ事業ヲ起シ以テ市町村有財産ノ生産力若クハ住民ノ經濟力ヲ増進シ假令一時ノ負擔ヲ増スモ永遠ノ利益ヲ生ス可キ場合ヲ謂フナリ尤何レノ場合ニ於テモ一時ノ歲入ヲ以テ支辨シ能ハサル時ニ限ルモノトス但年々要スル所ノ常費ハ必經常ノ歲入ヲ以テ支辨ス可キモノニシテ公債ヲ募ルヲ得ス公債募集ニ當テハ深ク注意ヲ

加へ成ルヘク住民ノ負擔ヲ輕クシ利息ハ時ノ相場ニ準シ隨時償還ノ約ヲ立
 テ、市町村ニ便利ヲ與ヘサル可カラズ到底償還方法ノ確定スルニ非サレハ
 募集ヲ許サス又公債ハ成ル可ク市町村ノ財政ニ適準シ償還期限ハ長キニ過
 ク可カラズ故ニ本制ニ於テハ償還ハ三年以内ニ始マルモノトシ年々ノ償還
 歩合ヲ定メ且募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ例規ト爲セリ若シ
 此例規ニ違ハントスルトキハ必官ノ許可ヲ要ス(市制第百二十二條第一、町
 村制第百二十六條第一)元來許可ヲ要セサル公債ノ種類ト雖モ右ノ例規ニ
 違フトキハ亦官ノ許可ヲ請フ可シ

公債ヲ起スト起サ、ルト及其方法ノ如何ハ市町村會ノ議決ニ屬ス(市制第
 三十一條第八、町村制第三十二條第八)唯定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メニ
 シテ一會計年度内ニ償還ス可キ公債ハ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス市參
 事會ノ意見ヲ以テ募集スルヲ得ト雖モ(市制第百六條、第三項)町村ニ於テ
 ハ町村會ノ同意ヲ要スルコト勿論ナリ蓋斯ノ如キ公債ハ収入支出ノ多キ市
 ノ如キニ在テハ自然己ム可カラサルモノニシテ其支出ノ時期ト収入期限ト
 常ニ相合一セサルカ故ナリ

凡公債ヲ募集スルニ付許可ヲ受ク可キハ右ニ陳述シタル場合及會テ負債ナ
 キニ新ニ公債ヲ起シ又ハ舊債ヲ増額スルトキニ在リ故ニ前記ノ如キ一時ノ
 借入金ヲ爲シ又ハ舊債償還ノ爲メニスル公債ニシテ其規約舊債ヨリ負擔ヲ

輕クスルトキノ如キハ渾テ許可ヲ要セス其他ハ償還期限三年以内ノモノヲ
 除クノ外内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

既ニ募集シタル公債ヲ豫定ノ目的外ニ使用セントスルトキハ市町村會ノ議
 決ヲ要シ且若シ其公債ニシテ官許ヲ要スルトキハ許可ヲ受クヘキコト言ヲ
 俟タス

市町村ノ財政ハ政府ノ財政ニ於ケルト均ク三個ノ要件アリ即チ

甲 定額豫算表ヲ調製スル事

乙 收支ヲ爲ス事

丙 決算報告ヲ爲ス事

以上ノ三要件ニシテ法律中ニ細目ヲ設ク可キ必要アルモノハ本制第四章第
 二款ニ於テ之ヲ規定セリ

甲

財政ヲ整理シ收支ノ平衡ヲ保ツニハ定額豫算表ヲ設ケサル可カラズ本制ハ
 (市制町村制第百七條)市町村ヲシテ豫算表調製ノ義務ヲ負ハシム故ニ若シ
 市町村ニ於テ此義務ヲ盡サ、ルトキハ法律上ノ權力ヲ以テ之ヲ強制スルヲ
 得可ク若シ之ヲ議決セサルトキハ府縣參事會郡參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ補
 フコトヲ得可シ(市制第百十九條、町村制第百二十三條)此義務ハ決シテ免
 ル可カラサルモノナレハ狹小ノ町村ト雖モ猶之ヲ負擔セサルヲ得ス其豫算

表ハ一年ノ見積ヲ以テ之ヲ設ケ其會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同クセリ其
 他本制ハ豫算表調製ノ細目ヲ定メス要スルニ一切ノ收支及收入不足ノ場合
 ニ方リ支辨方法ヲ定ムルヲ以テ足レリトス但財政整理上ニ於テ其市町村ノ
 資力ヲ酌量ス可キ必要ノ細目ハ省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ
 定額豫算ノ案ヲ調製スルコトハ町村長及市參事會ノ擔任ニシテ之ヲ議決ス
 ルハ市町村會ノ職權ニ屬ス收支ヲ許可スルコトハ市町村會ノ全權ニ任セス
 シテ法律上ノ檢束ヲ設クルモノアリ即當然支出ス可キモノヲ否決シタルト
 キハ監督官廳ニ於テ強制豫算ヲ令スルノ權(市制第百十八條、町村制第百二
 十二條)アリ又其議決ノ越權ニ涉リ又ハ公益ヲ害スルモノハ其議決ヲ停止
 スルノ權(市制第六十四條第一、町村制第六十八條第一)アリ次項ニ依リテ
 ハ官ノ許可ヲ要スルカ故ニ(市制第百二十二條、第百二十三條第五第六、町
 村制第百二十六條、第百二十七條第五第六)市町村住民ノ爲メニ過度ノ負擔
 ヲ制止スルノ方法ハ十分備ハレリト謂フ可シ故ニ豫算表ハ市町村會ノ議決
 スル所ニ依リ其全體ニ於テ許可ヲ受クルヲ要セス唯右ニ記載シタル場合ニ
 限リテ許可ヲ受クルヲ要スルノミ
 凡定額豫算表ハ二様ノ效力アリ即一方ニ於テハ理事者ヲシテ豫定ノ收支ヲ
 爲スノ權利ヲ得セシメ一方ニ於テハ踰越ス可カラサルノ制限ヲ負ハシムル
 モノナリ特ニ豫算外ノ支出豫算超過ノ支出若クハ費目ノ流用ヲ爲スニ當テ

ハ更ニ市町村會ノ議決ヲ經可キモノトス此場合ニ於テ市町村會ハ當初豫算
 ヲ議定スルト同一ノ規定ニ從テ之ヲ議決ス可キナリ其追加豫算若クハ豫算
 ノ變更ヲ議決スルニ當リ其事項タル官ノ許可ヲ要スルトキハ均ク其許可ヲ
 受ク可キコト、ス豫備費ヲ設ク可キト否ト及其額ノ如何ハ市町村會ノ議定
 ニ在リト雖モ己ニ之ヲ設ケタルトキハ市制町村制第百九條ノ制限ヲ除クノ
 外町村長及市參事會ノ之ヲ使用スルニ任ス但其決算報告ヲ爲ス可キハ固ヨ
 リナリトス

乙

市町村收支ノ事務ハ之ヲ官吏ニ委任セスシテ之ヲ市町村ノ吏員即收入役ヲ
 置テ之ニ委任ス是多ク各國ニ行ハル、所ノ實例ニシテ其吏員ハ市町村ニ於
 テ之ヲ選任シ有給吏員ト爲セリ要スルニ本制ノ旨趣ハ收支命令者ト實地ノ
 出納者トヲ分離獨立セシメント欲スルニ在リ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ
 委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非スシテ此ノ如キ場合ハ極メテ罕ナル
 可シ若シ町村ノ情況ニ依リ別ニ有給ノ收入役ヲ置クヲ要セサルトキハ寧ロ
 之ヲ助役ニ委任スルヲ可トス又比隣ノ小町村ハ町村制第百十六條ニ從ヒ其
 同シテ收入役一名ヲ置クモ亦便宜ニ任ス
 收支命令權ハ町村長若クハ市參事會及監督官廳ニ屬ス收支命令ハ書面ヲ以
 テセサル可カラス收支命令ヲ受ケスシテ爲シタル支拂ハ市町村ニ於テ之ヲ

認定スルヲ要セス抑收支命令ト實地ノ出納トヲ分離スルハ支拂前ニ於テ其豫算ニ違フ所ナキヤヲ監査スルニ便ナルカ爲メナリ元來決算報告ヲ爲スハ即此目的ニ外ナラスト雖モ既ニ支拂後ニ係ルヲ以テ其監査ハ往々時機ニ後ル、ノ憾アリ故ニ本制ハ(市制町村制第百十條)收入役ニ負ハシムルニ其命令ノ正否ヲ查スルノ義務ヲ以テシ其命令若シ定額豫算又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ決議ニ適合セス又豫備費ヨリ支拂フ可キトキ該費目ノ支出ニ關スル規定ヲ遵守セサルニ於テハ之ヲ支出スルヲ得サルモノトス此義務ハ收入役ノ賠償責任ト懲戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ニ之ヲ盡サシムルヲ得可シ若シ町村長ニ收入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ收支命令ト支拂トノ別ハ自ラ消滅シ隨テ上ニ記載シタル監査ノ法モ亦之レナキニ至ル可シ

收入役ヲシテ右ノ義務ヲ行ヒ易カラシメンカ爲メ定額豫算表ハ勿論追加豫算若クハ豫算變更ノ議決ハ必之ヲ收入役ニ通報セサル可カラス其豫算表及臨時ノ議決ハ併セテ簿記ノ標準ト爲ルモノナリ本制ハ簿記ノ事ニ就テハ規定ヲ立ツルコトナシト雖モ簿記及一般出納事務ニ就テハ追テ訓令ヲ以テ原則ヲ示スコトアル可シ又本制ハ出納ヲ檢査スルヲ以テ市町村ノ義務ト爲セリ(市制町村制第百十一條)若シ理事者ニ於テ此義務ヲ行ハス又ハ檢査ヲ行フテ盡サ、ル所アルカ爲メ市町村ニ損害ヲ醸シタルトキハ市町村ニ對シテ賠償義務ヲ負ハシム可キナリ此賠償義務ノ外懲戒ヲ加ヘ得可キハ言ヲ俟タ

ス

丙

決算報告ノ目的ハ二アリ左ノ如シ

- 一 計算ノ當否及計算ト收支命令ト適合スルヤ否ヲ審査スル事(會計審査)
 - 二 出納ト定額豫算表又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ議決又ハ法律命令ト適合スルヤ否ヲ查定スル事(行政審査)
- 會計審査ハ會計主任者(即收入役又ハ收入役ノ事務ヲ擔任スル助役若クハ町村長)ニ對シ行フモノニシテ行政審査ハ市町村ノ理事者即町村長若クハ市參事會ニ對シテ行フモノナリ其會計審査ハ先ツ町村長(但町村長ニ於テ會計ヲ兼掌スルトキハ此限ニ在ラス)及市參事會ニ於テ之ヲ行ヒ次テ市町村會ニ於テ右ニ様ノ目的ヲ以テ會計ヲ審査ス(市制町村制第百十二條)是故ニ收支命令者(町村長、助役、市參事會員)ニシテ市町村會ノ議員ヲ兼スルトキハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス(市制第四十三條、町村制第四十五條)若シ又議長タルトキハ其議事ノ議長席ニ居ルコトヲ得サルモノトス(市制第百十二條、町村制第百十三條)是利害ノ互ニ抵觸スルヲ以テナリ
- 決算報告ノ時會計ニ不足アルトキハ市制第百二十五條若クハ町村制第百二十九條ヲ適用ス可シ

市制町村制第五章 市町村內特別ノ財産ヲ有スル市區又ハ各部ノ行政

行政ノ便利ノ爲メニ畫シタル區ト一市町村內ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各部トノ區別アルハ固ヨリ言テ俟タズ本制ハ一市町村ノ統一ヲ尙フモノニシテ一市町村內ニ獨立スル小組織ヲ存續シ又ハ造成スルコトヲ欲スルニアラス然レトモ強テ此原則ヲ斷行セントスルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ傷害スルノ恐レアリ故ニ概シテ此旨趣ニ依テ論ス可カラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現今既ニ特別ノ財産ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニ又此ノ如キ部落ヲ現出ス可シ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ存スルモノト謂フ可シ又他ノ一方ヨリ論スルトキハ市制町村制第九十九條ノ原則ニ依リ其部落ハ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之レカ爲メ直ニ別段ノ組織ヲ要スルコトナカル可シ其特別財産又ハ營造物ノ管理ハ之ヲ其全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市參事會ニ委任スルモ妨ケナシ(市制第百十四條、町村制第百十五條)若シ區長ヲ置クトキハ町村長又ハ市參事會ニ於テ區長ニ指揮シテ其管理ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得可シ尤其一部ノ權利ヲ傷害ス可カラサルハ言テ俟タズ本制ニ於テ其一部ノ出納及會計ノ事務ヲ分別ス可キモノトスルハ即是カ爲メナリ議會ノ職掌ヲ論スレハ(市制自第二十條至第二十五條、町村制自第三十二條至第三十七條)特別

事務ト雖モ總テ之ヲ市町村會ニ委任スルモ妨ケナキ而已ナラス却テ希望ス可キ所ナリ然レトモ地方ニ依リテハ全市町村ト其各部落トノ利害ハ互ニ相抵觸スルコト往々之レアリ其甚キニ至テハ多數ノ爲メニ壓抑ヲ蒙ルルコトアリ依テ其一部限リノ選舉ヲ以テ特別ノ議會ヲ起シ以テ其議事ヲ委任スルコトヲ得可シ其之ヲ起スノ利害ニ就テハ一般ノ原則ヲ設ケ難キカ故ニ姑ク條例ヲ規定ニ任セサル可カラス但此條例ハ固ヨリ普通ノ規定ニ依ル可クシテ特別ノモノニ非スト雖モ其之ヲ設ケ並其事項ヲ定ムルハ市町村會ノ議決ニ任セシテ之ヲ郡若クハ府縣參事會ニ委任セリ何トナレハ利害ノ相抵觸スルカ爲メ偏頗ノ處置アラシト恐ルレハナリ唯市町村會ノ意見ヲ徵ス可キハ勿論ナリトスルニ區會ハ市町村會又ハ區內人民ノ情願ニ依リ之ヲ設クルヲ當然トス

區會ノ構成ハ本制ニ規定シタル市町村會ノ組織ニ依準シ條例中ニ之ヲ定ム可キモノトス區會ノ職掌ハ市町村會ノ職掌ニ同シ唯其特別事件ニ限ルノミ

町村制第六章 町村組合

本制ノ希望スル如ク有力ノ町村ヲ造成シ又郡ヲ以テ自治體ト爲ストキハ其他別ニ區畫ヲ設クルノ必要ナカル可キナリ殊ニ一事件アル毎ニ區別ノ聯合ヲ設クルヲ要セサル可シ若シ漫ニ聯合ヲ設クルトキハ行政事務簡明ナラス其組織錯綜ヲ極メ費用モ亦隨テ増加スルヲ免レサルハ英國ノ實例ヲ以テ證

スルニ足ル可シ獨リ水利土功ノ聯合又ハ小町村ニ於テ學校ノ聯合ヲ設クル
 ガ如キハ萬已ムヲ得サルモノニシテ皆別法ヲ以テ規定セサル可カラス然レ
 トモ其別法ノ發布セサル間ハ本制ニ於テ豫メ之カ方法ヲ設ケサル可カラス
 又此必要アルノ外往々町村組合ヲ設クルノ活路ヲ示ス可キモノアリ即本制
 ニ於テハ關係町村ノ協議ヲ以テ其組合ヲ爲スノ目的、組合會議ノ組織、事務
 管理ノ方法及費用ノ支辨方法等ヲ定ムルトキハ(町村制第十六條第一項、
 第十七條第一項)監督官廳即郡長ノ許可ヲ得テ組合ヲ成スコトヲ許セリ
 町村ニ於テ相當ノ資力ヲ有セサルトキ組合ヲ爲サシムルニ必要ト爲スカ如
 キ是ナリ此ノ如キ場合アルトキハ町村制第四條ニ於テ合併ス可キコトヲ規
 定スト雖モ事情ニ依リテハ合併ヲ施ス可カラス又ハ之ヲ不便ト爲スコトナ
 シトセス例ヘハ該町村ノ互ニ相遠隔スルカ如キ又ハ古來ノ慣習ニ於テ調和
 ヲ得サルカ如キノ類アリ此ノ如キニ至テハ其町村ノ異議アルニモ拘ラス事
 務共同ノ爲メ組合ヲ成サシムルノ權力ナカル可カラス其組合ヲ成ストキハ
 第四條ノ場合ニ異ニシテ其各町村ノ獨立ヲ存シ又別ニ町村長及町村會若ク
 ハ町村總會ヲ有ス可キ理ナリ然レトモ其組合ヲ成ス所ノ共同事務ノ多寡及
 種類ハ其組合ニ依テ互ニ異ナルモノトス
 抑協議ニ依ラスシテ組合ヲ設クルハ町村ノ獨立權ヲ傷クルノ恐レアルニ依
 リ郡參事會ノ議決ニ任スルヲ妥當ナリトス(町村制第十六條第二項)果シ

テ其共同事務ノ區域ヲ定メ強制ヲ以テ組合ヲ成サシムルトキハ議會ノ組
 織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法就中分擔ノ方法ニ至テハ先ツ關係町村
 ニ於テ之ヲ協議スルヲ要ス若シ其協議調ハサルニ及テハ郡參事會ニ於テ之
 ヲ議決スルノ外ナシ

組合議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法殊ニ分擔ノ割合ハ本制ニ
 於テ豫メ之ヲ規定セス實際ノ場合ニ於テ便宜其方法ヲ制スヘシ故ニ組合ハ
 特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互選ノ委員ヲ以テ
 議會ヲ組織シ或ハ各町村會別個ニ會議ヲ爲シ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合
 ノ議決ト爲スノ程各其宜キニ從フヘシ又町村長ノ如キモ組合ニ一ノ町村長
 ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ或ハ各町村長ノ交番ト爲スヲ得ヘシ又組合ノ費
 用ハ或ハ特別ノ組合費トシテ之ヲ各個人ニ賦課シ或ハ之ヲ各町村ニ賦課シ
 以テ其賦課徵收ノ法ヲ各町村ノ便宜ニ任スルヲ得ヘシ各町村分擔ノ割合ハ
 利害ノ輕重、土地ノ廣狹、人口ノ多寡及納稅力ノ厚薄ヲ以テ標準ト爲スヘシ
 但其納稅力ノ認定方ニ至テモ亦之ヲ一定スルコト能ハサルヘシ以上ノ各事
 項ニ關シ本制ハ全ク實地宜キニ從フヲ許セリ故ニ各地方ニ於テ其便ト爲ス
 所ヲ採擇スヘシ
 組合町村ハ之ヲ解クノ議決ヲ爲スヲ得ト雖モ郡長ノ許可ヲ得ルヲ要ス(町
 村制第一百八條)

市制第六章 町村制第七章 市町村行政ノ監督

監督ノ目的及方法ハ本説明中各處ニ之ヲ諷セリ故ニ復タ之ヲ贅セス唯茲ニ其要點ヲ概括セントス

(第一)監督ノ目的ハ左ノ如シ

一 法律、有效ノ命令及官廳ヨリ其權限内ニテ爲シタル處分ヲ遵守スルヤ否ヲ監視スル事

二 事務ノ錯亂澁滞セサルヤ否ヲ監視シ時宜ニ依テハ強制ヲ施ス事(市制第七十七條、町村制第二百一十一條)

三 公益ノ妨害ヲ防キ殊ニ市町村ノ資力ヲ保持スル事
以上ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ左ノ方法アリ

一 市町村ノ重役ヲ認可シ又ハ臨時町村長助役ヲ選任スル事(市制第五十條、第五十一條、第五十二條、町村制第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條)

二 議決ヲ許可スル事(市制第二百二十二條、第二百二十三條、町村制第二百十六條、第二百二十七條)

三 行政事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ查閱シ事務ノ現況ヲ視察シ並出納ヲ檢閲スル事(市制第一百七十七條、町村制第二百一十一條)
四 強制豫算ヲ命スル事(市制第一百八十八條、町村制第二百二十二條)

五 上班ノ參事會ニ於テ代テ議決ヲ爲ス事(市制第一百十九條、町村制第二百二十三條)

六 市町村會及市參事會ノ議決ヲ停止スル事(市制第六十四條、第一、第六十五條、町村制第六十八條、第二)

七 懲戒處分ヲ行フ事(市制第二百二十四條、第二百五條、町村制第二百一十八條、第二百二十九條)

八 市町村會ヲ解散スル事(市制第二百二十條、町村制第二百二十四條)
(第二)監督官廳ハ左ノ如シ

町村ニ對シテハ

- 一 郡長
- 二 知事
- 三 內務大臣

市ニ對シテハ

- 一 知事
- 二 內務大臣

法律ニ明文アル場合ニ於テハ郡長若クハ知事ハ郡參事會若クハ府縣參事會ノ同意ヲ求ムルヲ要ス但參事會ヲ開設スルマテハ郡長知事ノ專決ニ任ス(市制第二百二十七條、町村制第三百十條)

市町村吏員ノ處分若クハ議決ニ對スル訴願ニ就テハ先ツ市町村ノ事務ト市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務トノ間ニ區別ヲ立テサル可カラス市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務ニ關シテ

訴願ヲ許スト否トハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス之ニ反シテ市町村ノ事務ニ關シテハ此法律ニ明文アル場合ニ限レリ(市制第八條第四項、第二十九條、第三十五條、第六十四條第一、第七十八條、第五百五條、第二百二十四條、町村制第八條第四項、第二十九條、第三十七條、第六十八條第一、第七十八條、第一百五條、第二百二十八條)

本制ハ訴願ノ必要ナル場合ヲ列載シ悉シタルモノトス又監督官廳ハ自己ノ發意ニ依リ其職權ヲ以テ監督權ヲ行フヲ得ルノミナラス人ノ告知ニ依テ亦之ヲ行フヲ得可シ而シテ其告知ハ本制ニ所謂訴願ノ種類ニアラサレハ期限ヲ定メス又前キノ處分若クハ議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得サルナリ(市制第一百十六條第二項、第五項、町村制第二百二十條第二項、第五項)市町村ノ行政事務ニ關シ郡長若クハ府縣知事ノ第一次又ハ第二次ニ於テ爲シタル處分若クハ裁決ニ對シテハ其參事會ノ同意ヲ得ルト否トニ拘ラス一般ニ訴願ヲ爲スヲ許セリ特ニ法律ニ明文アル場合ニ限リテ之ヲ許サ、ルモノトス(市制第一百十六條第一項、町村制第二百二十條第一項)若シ其處分又ハ裁決郡長ヨリ發シタルモノナルトキハ之ニ對スル訴願ハ知事之ヲ裁決シ郡參事會ヨリ發シタルモノナルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス知事及府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ共ニ內務大臣ニ訴願スルモノトス而シテ權利ノ消長ニ關ス

ル結局ノ裁決ハ之ヲ行政裁判所ニ委任スルヲ妥當ト爲スハ上來屢々之ヲ說明セリ但權利ノ爭論ハ一般ニ行政訴訟ヲ許スニアラスシテ之ヲ許ス可キノ必要アル場合ニ限り特ニ之レカ明文ヲ掲ク故ニ其明文ナキ場合ニ於テハ結局ノ裁決ハ常ニ內務大臣ニ屬スルモノトス而シテ行政訴訟ヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルヲ許サス最上官衙ノ裁決ヲ以テ法司ノ審判ニ付スルヲ欲セサルカ故ナリ但本制ニ於テ行政裁判所ノ權限ヲ規定シタルハ市町村ノ行政事務ニ關スル事ニ止マリ其他ノ事務ニ涉ル權限ハ他日別法ヲ以テ定ム可キコト、又目下行政裁判所ノ設ケナキヲ以テ之ヲ開設スルマテノ間ハ內閣ニ於テ其職務ヲ擔任スヘキコト止ムヲ得サルナリ(市制第二百二十七條、町村制第二百二十條)

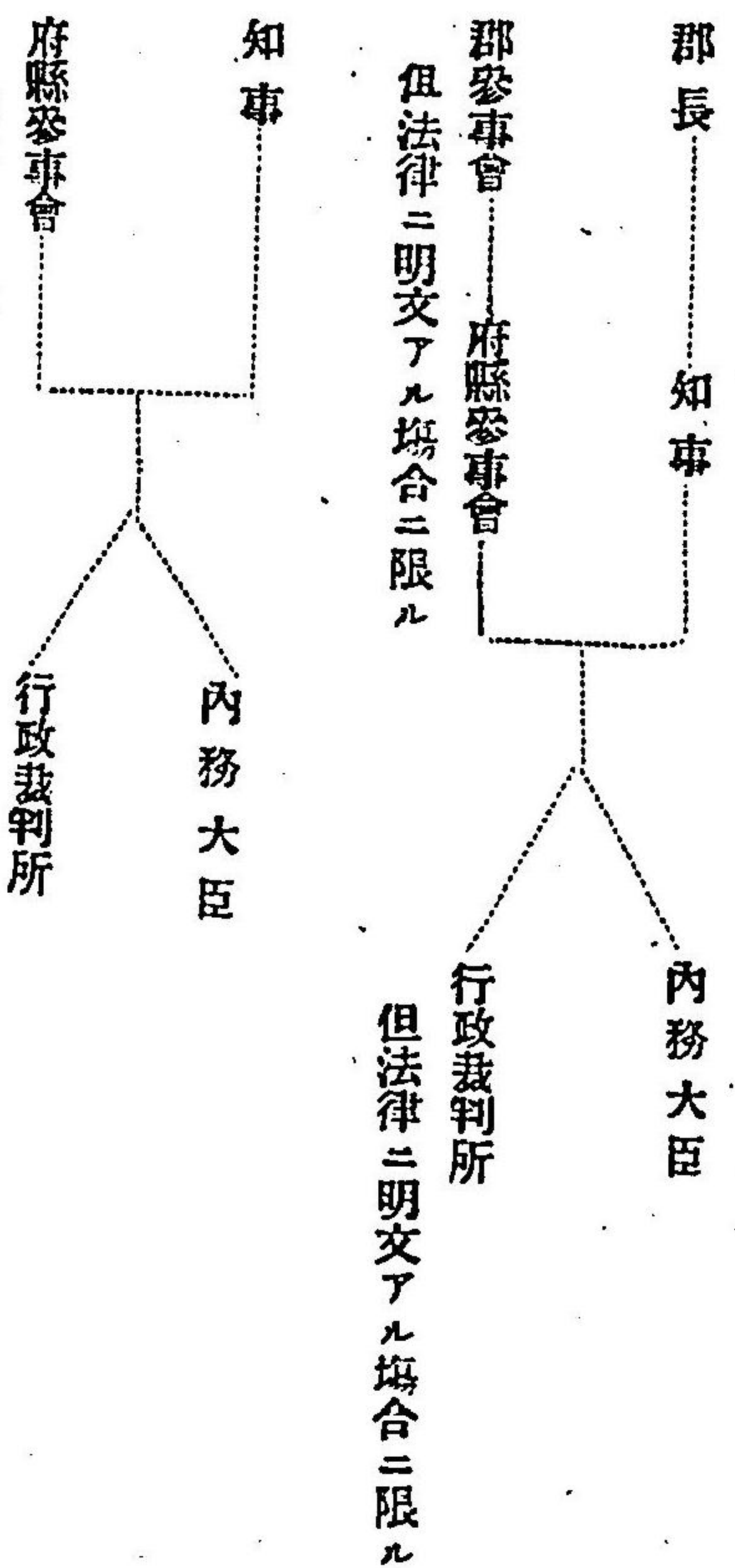
以上記述スル所ノ要旨ハ即左ノ如シ

(第一)市町村ノ行政事務ニ屬セサル事件ニ對スル訴願及其順序ハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス

(第二)條市町村ノ行政事務ニ關スト雖モ市町村吏員ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ本制ニ明文ヲ掲ケタル場合ニ於リ訴願ヲ許シ之ニ反シテ監督官廳又ハ郡府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ一般ニ訴願ヲ許ス其訴願ノ順序ハ左圖ノ如シ

町村

市



但法律ニ明文アル場合ニ限ル
 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
 但法律ニ明文アル場合ニ限ル

○東京市京都市大坂市ニ特例ヲ設ク
明治二十二年三月法律第十三號

朕市制中東京市京都市大坂市ニ特例ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 東京市京都市大坂市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府

知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ

第二條 東京市京都市大坂市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 東京市京都市大坂市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其職務ヲ行フ

第四條 東京市京都市大坂市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給吏員ト爲シ市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 東京市京都市大坂市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第六條 東京市京都市大坂市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政並收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條 東京市京都市大坂市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 東京市京都市大坂市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス

○市制町村制中內閣ニ於テ行フヘキ行政裁判手

續明治二十二年六月法律第十六號

朕市制第二百二十七條及町村制第三百十條ニ據レル行政裁判手續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十一年^四法律第一號市制第二百二十七條及町村制第三百十條ニ依リ當分ノ内閣ニ於テ行フヘキ行政裁判ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ受理審問セシノ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ言渡サシム

○町村制ヲ施行セサル島嶼 明治二十二年一月 勅令第一號

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
町村制第三百二十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

- 東京府管下
 - 小笠原島 伊豆七島
 - 長崎縣管下
 - 對馬國
 - 嶋根縣管下
 - 隱岐國
 - 鹿兒島縣管下
 - 大隅國大島郡
 - 大島 德ノ島 喜界島 沖永良部島 與論島

薩摩國川邊郡

- 硫黃島 黑島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 惡石島 諏訪ノ瀨島 寶島

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費支給及負擔方 明治二十二年一月 勅令第二號

○負擔及支給方

朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本屬府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○市町村歲入出豫算表式 明治廿二年三月 內務省令第二號

明治二十一年法律第一號市制町村制ニ依リ市町村歲入出豫算表式差ノ通相定ム

市町村歲入出豫算表式

某府(縣) 某郡某町(村)(某町村組合) 市 明治何年度歲入出總計豫算

一金	歳入	歳入豫算高
一金	歳出	經常費豫算高
一金		臨時費豫算高
合計金 <small>(臨時費ノ豫算ナキト)</small> <small>キハ此合計ヲ省ク</small>		
歳入出差引		
殘金		
<p>歳入出差引殘金及歳出ノ精算殘金ハ翌年度繰越金ニ編入スルヲ通例ト爲スト雖モ若シ該殘金又ハ歳入豫算ニ對スル實収額ノ増減金額等殊ニ其處分ヲ要スルトキハ豫メ其方法ヲ議定シ本案ニ列掲スヘシ例ヘハ殘金ノ處分ニ付テハ其殘金總額ノ何歩ハ基本財産何歩ハ豫備費何歩ハ翌年度繰越金ニ編入スヘシト掲記シ又豫算ニ對スル實収ノ増減ニ付テハ何收入何税ノ増額ハ何收入何税ノ實收減額ヲ補填シ猶殘金アルトキハ何々(基本財産、豫備費、翌年度繰越金等)ニ編入スヘシト掲記スルノ類</p>		
某府(縣)某郡某町(村)某町村組合 市明治何年度歳入出豫算表		

科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	附記
第一款	財産ヨリ生 スル收入			
一				
二				
三				
第二款	使用料及手数料			
一				
二				
三				
第三款	雜收入			
一				
二				
三				

		前年度繰越金		本年度繰算額		附記	
		前年度繰算額	本年度繰算額	前年度繰算額	本年度繰算額		
第四款	前年度繰越金						
	第五款(市)町村稅						
	一 地價割						
	二 營業割						
	三 戶別割(家屋割)						
合計							
歲出							
經常費							
科 目	第一款 役所(役場)費						
	一						
	二						
	三						

		前年度繰越金		本年度繰算額		附記	
		前年度繰算額	本年度繰算額	前年度繰算額	本年度繰算額		
第二款 會議費	一						
	二						
	三						
第三款 土木費	一						
	二						
	三						
第四款 教育費	一						
	二						
	三						
第五款 衛生費	一						
	二						
	三						

六 市町村特別税ヲ設クルキハ戸別割又ハ家屋割ノ次ニ之ヲ掲載スヘシ
 七 諸税及負擔ノ款ニハ市町村有地所ノ地租又ハ地租割及郡費負擔等ノ類ヲ編入スヘシ
 八 雜支出ノ款ニハ火災保險料、山番給、墓地費等他ノ各款ニ屬セサル諸支出ヲ編入スヘシ
 九 雜收入又ハ雜支出ニ編入シ難キ收支アル等別ニ一欸ヲ設クルノ必要アルトキハ適宜之ヲ設クルコトヲ得
 十 歳入歳出科目中其節目數多ニ涉ルモノハ適宜ニ項目ヲ設クルヲ得例ヘハ役場費中ニ給料雜給需用費ノ項目ヲ設ケ尙其細節ヲ編次スル如シ
 十一 上級ノ經濟國庫地方補助金アルカ若クハ人民ヨリ寄付金アルトキハ歳入ノ部ニ在テハ前年度繰越金ノ次各其一欸ヲ設ケ歳出ノ部ニ在テハ該當費目ノ金額欄内ニ内金何圓何補助又ハ寄付金ト附記スヘシ
 十二 豫備費ヲ置クトキハ雜支出ノ次ニ其一欸ヲ設クヘシ若シ精算殘餘ヲ生スルトキハ順次之ヲ次年度ニ繰越スコトヲ得
 十三 瓦斯燈水道等ノ類ニシテ別ニ豫算ヲ設クルヲ必要トスルトキハ適宜之ヲ調製スルコトヲ得
 十四 町村組合ニ在テハ分擔法ニ依リ歳入科目第五欸町村税ノ欸ニ於テ左ノ如ク掲載スルモ妨ケナシ

第五欸 町村 税	
某 町ノ 負擔	
一 地價割	
二 營業割	
三 戶別割	
某 村ノ 負擔	
一 地價割	
二 營業割	
三 戶別割	

○市制町村制中直接税間接税ノ類別 明治二十一年七月大藏省告示第九十五號

本年法律第一號市制第三百三十一條町村制第三百三十六條直接税間接税ノ類別ハ左ノ諸税ヲ以テ直接税トシ其他ハ間接税トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵

收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシム

國稅

地租 所得稅

地方稅

地租割 戶數割 家屋稅 營業稅 雜種稅

區町村費

地租割 段別割 戶別割 家屋割 營業割

○市制施行地指定

明治二十二年二月 內務省告示第一號

明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ市制施行地左ノ通指定ス

市制施行地

東京府管下	東京	京都府管下	京都
大阪府管下	大阪	神奈川縣管下	橫濱
兵庫縣管下	神戸	長崎縣管下	長崎
新潟縣管下	新潟	茨城縣管下	水戸
三重縣管下	津	愛知縣管下	名古屋
静岡縣管下	静岡	宮城縣管下	仙臺

巖手縣管下	盛岡	青森縣管下	弘前
山形縣管下	山形	秋田縣管下	秋田
福井縣管下	福井	石川縣管下	金澤
富山縣管下	富山	福井縣管下	松江
岡山縣管下	岡山	廣島縣管下	廣島
山口縣管下	赤間關	和歌山縣管下	和歌山
德島縣管下	德島	香川縣管下	高松
愛媛縣管下	松山	高知縣管下	高知
福岡縣管下	福岡	熊本縣管下	熊本
鹿児島縣管下	鹿児島		

明治二十二年三月內務省告示第十號
 明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ佐賀縣管下佐賀ヲ市制施行地ニ指定ス
 明治二十二年六月內務省告示第十八號
 明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ岐阜縣管下岐阜山梨縣管下甲府ヲ市制施行地ニ指定ス

○水利土功會學事會議存續ノ件

明治二十二年三月 法律第十一號

朕水利土切及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
從來開設シタル水利土切若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年(五
月)第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準
據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規則ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

○區町村會法 明治十七年五月
第十四號布告

明治十三年^四月^四第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方
法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣
令之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議
案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ
其評決ヲ不適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮
ヲ請フヘシ
- 第五條 區長ニ於テ區會郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ

治安ヲ害スルコトアリト認ムルキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ
指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スル
コトアリト認ムルキハ何時タリモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改
選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルキハ更ニ開會ヲ命シ又
ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認
可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開
クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終
ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村
ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムルモノニ限ル但府縣會規則第十三
條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコ
トヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村
ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條
第一款第二款第三款四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長、町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶

長若シ事故アルキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況ア

ルヲ認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルキ其區域ヲ定メテ聯

合區町村會ヲ開設スルヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合

區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土

功會ヲ開設スルヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區區長戶長數

人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶

長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右 奉勅旨布告候事

○戶長選任方 明治十七年五月 第四十一號達

戶長ハ府知事縣令之ヲ選任ス但町村人民ヲシテ三人乃至五人ヲ選舉セシメ 府知事縣令其中ニ就テ選任スルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

○町村人民戶長選舉方 明治十七年五月 第二十五號達

本年四十一號公達ニ仍リ町村人民ヲシテ戶長ヲ選舉セシムルトキハ其選舉 方ハ區町村會議員選舉ノ例ニ照準スヘシ此旨相達候事

○戶長役場費ハ町村費ヲ以テ支辨ス 明治十七年五月 第二十四號達

四號

本年第十三號ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戶長役 場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○區町村共有物ハ區町村會ノ評決ニ付ス 明治二十年十一月 第四十七號

內務省訓令

府 縣 沖繩縣

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評 決セシムヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○區町村費ニ係ル寄附及雜收入ハ區町村會ノ評

決ニ付ス 明治二十年十二月 內務省訓令第二十一號

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ
區町村費ノ雜收入他ノ收入ト同シク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

○市區改正

○東京市區改正條例 明治二十一年八月 勅令第六十二號

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ內務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタル時ハ內務大臣ニ具申スヘシ內務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一 地租割

地租同額以内但耕地ヲ除ク

一 營業稅並雜種稅

地方稅十分ノ四以内

一 家屋稅

同上

一 清酒

區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五十錢以内

第四條 特別稅滯納者ハ租稅滯納處分法ニ依テ處分ス

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財産トシテ即今官有ニ供セサル東京府區部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但己ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 第三條第五條ノ收入合計ハ毎年度三拾萬圓ヨリ少カラス五拾萬圓ヨリ多カラサルモノトス但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額

ニ合算スルコトヲ得ス

第八條 前條ノ收入金額ハ先ツ燒失跡地改正事業ノ費用ニ充テ殘餘ヲ以テ其他ノ改正費用ニ充ツヘシ

第九條 東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテテ一週年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受タルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條 東京府知事ハ一週年度ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後内務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條 年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部會ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集ス

ルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市區改正ニ屬スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條 市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條 市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○東京府區内清酒輸入規則 明治二十一年十二月 勅令第八十八號

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京府區内清酒輸入規則

第一條 東京府區内ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區内ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條 免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ輸入シタルキハ其清酒及容器ヲ沒収シ既ニ之ヲ費消シ又ハ賣捌タルモノハ其代金ヲ追徴ス

第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ税金ヲ通脱シタルトキハ其税金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 此規則ニ依テ没収シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモ
ノトス

第六條 清酒ヲ再輸出スルキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法

ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ
第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ責ニ任ス

第八條 此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○東京市區改正土地建物處分規則 明治二十二年一月

勅令第五號

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有
ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有
ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物
等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘ
シ
若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府
知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル
殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシ
テ曩ニ公用土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以
テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又
ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公買ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受ク
ヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事
ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定
ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受テ市區改正ニ要スル土地ニ屬ス
ル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ
受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得
若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物
植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地

貸借ノ契約ヲ解クコトヲ得
若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ヲナシタ
ル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求
スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ買却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

○東京市區改正委員會組織權限 明治二十一年八月
閣令第十四號

東京市區改正委員會ノ組織權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

東京市區改正委員會組織權限

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス(明治二十一年閣令
第十八號ヲ以テ委
員ノ次ニ臨時
委員ヲ追加ス)

委員長

委員

臨時委員

內務省高等官

大藏省高等官

陸軍省高等官

農商務省高等官

三人

二人

二人

二人

逓信省高等官

警視廳高等官

東京府高等官

東京府區部會議員

幹事

書記

二人

二人

二人

十八

第二條 委員長ハ内閣ニ於テ之ヲ特選シ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請

ニ依リ之ヲ命ス但東京府區部會議員ハ區部會ニ於テ之ヲ選定ス(全上ヲ以
下及臨時委員ノ
五字ヲ追加ス)

第三條 幹事ハ委員長ニ於テ委員中ヨリ之ヲ選定シ委員長ノ命ヲ受ケ庶務
ヲ整理ス

第四條 書記ハ委員長之ヲ命ス上官ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス(明治二
十一年閣令第十七號
ヲ以テ改正)

第五條 委員長ハ議事ヲ整頓ス

第六條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第七條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所
ニ依ル

第八條 委員會ハ畿ニ東京市區改正審査會ニ於テ議定シタル方案ニ據リ特ニ其改正ヲ要スルモノ、ミテ議定シテ市區改正ノ設計トナシ及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定ス

第九條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 委員會ハ市區改正ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ東京府知事ニ照會シテ其改正ヲ要求シ時宜ニ依リ內務大臣ニ具狀スルコトヲ得

第十四類 學制

○學位

○學位令 明治二十年五月 勅令第十三號

朕學位令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

學位令

- 第一條 學位ハ博士及大博士ノ二等トス
- 第二條 博士ノ學位ハ法學博士醫學博士工學博士文學博士理學博士ノ五種トス
- 第三條 博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ニ之ヲ授ケ又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ帝國大學評議會議ヲ經テ之ヲ授ケ
- 第四條 大博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ博士ノ會議ニ付シ學問上特ニ功績アリト認メタル者ニ閣議ヲ經テ之ヲ授ケ
- 第五條 本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

○學位令細則 明治二十年六月 文部省令第四號

本年五月勅令第十三號學位令第五條ニ基キ學位令細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

學位令細則

- 第一條 博士ノ學位ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ授ク
法科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ
法學博士
醫科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ
醫學博士
工科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ
工學博士
文科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ
文學博士
理科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ
理學博士
- 第二條 大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者アルトキハ帝國大學總長ノ具申ニ依リ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク
- 第三條 文部大臣ニ於テ大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト思慮スル者アルトキハ帝國大學評議會ノ議ニ付シ評議官總數三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク
- 第四條 博士ノ學位ヲ得ント欲スル者ハ文部大臣ニ申請スルコトヲ得但申請スル者ハ其履曆書及其專攻セル學科ノ範圍内ニ屬スル自著ノ論文一編ヲ差出スヘシ

- 第五條 帝國大學評議會ハ第三條ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトヲ得但試験ヲ受ルト否トハ本人ノ隨意トス
- 第六條 文部大臣ニ於テ學問上特ニ功績アリト思慮スル者アルトキハ博士ノ會議ニ付シ出席博士三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ヲ閣議ニ提出シ其可認ヲ得テ大博士ノ學位ヲ授ク
- 第七條 博士ノ會議ハ文部大臣指命スル所ノ委員之ヲ整理ス又博士二十名以上出席スルニアラサレハ之ヲ開カサルモノトス
- 第八條 博士ノ會議ヲ開クトキハ五週日前ニ官報ヲ以テ開會ノ場所及時日ヲ廣告ス
- 第九條 第五條ノ試験ニ關スル規則ハ帝國大學總長之ヲ定ム
- 第十條 學位記ノ様式左ノ如シ
(學位記様式略之)

○帝國大學

○帝國大學令 明治十九年三月 勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス
- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ
 - 總長 勅任
 - 評議官 奏任
 - 書記官 奏任
 - 書記 判任
- 第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄シ其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事
- 第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ

案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

- 第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事
- 第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス

評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

- 第一 學科課程ニ關スル事項
- 第二 大學院及分科大學ノ利害ノ鎖長ニ關スル事項
- 第八條 評議官ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充ツ
- 第九條 評議官ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ勤績ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學及理科大學トス
- 第十條 法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス
- 第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ
 - 長 奏任
 - 教頭 奏任
 - 教授 奏任
 - 助教授 奏任

舍監

奏任

書記

判任

第十二條 分科大學長ノ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス
分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 各分科大學ノ教頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

教頭ハ教授及助教ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條 各分科大學ノ教授助教ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應シテ別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○師範學校

○師範學校令 明治十九年四月 勅令第十三號

朕師範學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範學校令

第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條 師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ

管理ニ屬ス

第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ

但尋常師範學校附屬小學校ノ經費簡易科ニ係ルモノヲ除クハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ
授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ(明治二十年勅令第三十號ヲ以テ但書追加)

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受ノヘシ

第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ

第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼スルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノト
 ス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條 師範學校ノ學科及其程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○高等師範學校學科程度 明治十九年十月 文部省令第十七號

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ高等師範學校ノ學科及其程度ヲ定
 ムルコト左ノ如シ

高等師範學校ノ學科及其程度

- 第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分テテ男子師範學科及女子師範學科トス
- 第二條 男子師範學科ヲ分テテ理化學科博物學科及文學科トス
- 第三條 理化學科ハ教育學倫理學英語數學物理學化學手工圖畫及音樂體操
トス
- 第四條 博物學科ハ教育學倫理學英語有機化學礦物學地質學植物學動物學
生理學農業圖畫及音樂體操トス
- 第五條 文學科ハ教育學倫理學國語漢文英語地理曆史理財學哲學及音樂體
操トス
- 第六條 各學科ノ程度左ノ如シ

理化學科

教育學

倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及地練實習
 人倫道德ノ要旨

英語

講讀 作文 翻譯

數學

代數 幾何 三角術 測量 解折幾何 微分積分大意

物理學

力學 熱學 音響學 光學 越曆學 磁氣學 實驗 天文 氣象

化學

無機化學 有機化學 實驗 定性及定量分析

手工

木工金工ノ道具用法 簡易ノ木金器具製造

圖畫

用器畫法

音樂

溫習

體操

普通及兵式體操

博物學科

教育學

倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨

英語

講讀 作文 翻譯

有機化學

總論 炭素化合物分類及特論

鑛物學地質學

鑛物總論 鑛物特論 鑛物鑑識 構造地質 諸力ノ作用 地質沿革

植物學

植物分類 植物組織 植物生理 實驗

動物學

動物分類 動物組織 動物發生 實驗

生理學

總論 骨骼 筋肉 皮膚 循環 呼吸 消化神經 特感衛生 實地解剖

農業

土ノ成分分類植物ノ成分等 肥料ノ用法家畜ノ撰擇保護等 耕作ノ實業 器具ノ用法

圖畫

臨畫 投影畫法 照鏡法 寫生

音樂

溫習

體操

普通及兵式體操

文學科

教育學

倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨

國語漢文

日本ノ文法文學及作文 支那ノ文法文學及作文

英語 講讀 作文 翻譯
 地理歷史 政治地理 日本歷史 外國歷史
 財理學 大意
 哲學 心理 論理 哲學史
 音樂 溫習 體操
 普通及兵式體操
 第七條 理化學科博物學科及文學科ノ修業年限ハ三箇年トス
 第八條 理化學科博物學科及文學科ニ於テハ各三學級ヲ設ケ每學級ノ授業時限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス
 第九條 理化學科博物學科及文學科ノ授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ
 (授業時間表畧之)
 第十條 女子師範學科ハ倫理教育國語漢文英語數學簿記地理歷史博物物理

化學家事習字圖書音樂及體操トス
 第十一條 各學科ノ程度左ノ如シ
 倫理 人倫道德ノ要旨
 教育 總論 智育德育ノ理 學校管理法 教授法 教育史 批評及實地授業
 國語漢文 文法 講讀 作文 文學沿革ノ大畧
 英語 讀法 文法 翻譯 作文
 數學簿記 筆算 珠算 代數 幾何 單記複記
 地理歷史 日本地誌 外國地誌 地文概論 日本歷史 外國歷史
 博物 動物植物礦物地質ノ大要 人身生理及衛生
 物理化學 理論及實驗

家事

衣食住金錢ノ出納等ニ係ル事項及裁縫具ノ用法各種衣服裁縫等ノ實業
管理ノ心得

習字圖書

楷書 行書 草書 自在書法及用器書法

音樂

單音唱歌 複音唱歌 樂器用法及音樂上ノ名稱記號 施律和聲拍子等
ノ要略

體操

準備法 美容術 徒手啞鈴棍棒球竿ノ諸體操

第十二條 女子師範學校ノ修業年限ハ四箇年トス

第十三條 女子師範學校ニ於テハ四學級ヲ設ケ每學級ノ授業時限ヲ一年ト

シ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第十四條 女子師範學校ノ授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ

(授業時間表略之)

○尋常師範學校學科程度

明治十九年五月
文部省令第九號

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ定

ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校ノ學科及其程度

第一條 尋常師範學校ノ學科ハ倫理教育國語漢文英語數學簿記地理歷史博

物物理化學農業手工家事習字圖書音樂體操トス

農業手工及兵式體操ハ男生徒ニ課シ家事ハ女生徒ニ課ス

第二條 各學科ノ程度左ノ如シ

倫理

人倫道德ノ要旨

教育

總論智育德育體育ノ理學校ノ設置編制管理ノ方法教育ニ關スル本邦法
令本邦教育史外國教育史ノ概畧教授ノ原理各學科ノ教授法及實地授業

(明治廿一年文部省令第五號ヲ以テ管理ノ方法
ノ下ニ教育ニ關スル本邦法令ノ十字ヲ加フ)

國語

日本ノ文法文學ノ要略及作文

漢文

支那ノ文法文學ノ要畧

英語

綴字習字讀法文法及翻譯

數學

筆算ハ命位記數四則分數小數比例利息算自乘法開平開立求積法
珠算ハ加減乘除及四則雜題
代數ハ釋義記法符號四則分數一次方程式自乘法求根法指數法二次方程
式比例
幾何ハ定義公理直線直線形圓積形比例平面立體角

簿記

單記及複記

地理歷史

地理ハ總論日本地誌外國地誌ノ要略製圖法及地文ノ概略歷史ハ日本歷
史及外國歷史ノ要略

博物

博物ハ總論根莖枝葉花實等ノ形論及其作用生活種類分類法解折法記述
法採集法ノ要旨及隱花植物形質ノ概略
動物ハ總論有脊動物及無脊動物中ノ主要ナル諸綱ノ論及其解剖ノ初步
人身生理ノ要旨
礦物ハ總論形像化學及物理上ノ性質等及燃礦類金礦類石礦類鹵石類ノ
諸論普通礦物鑑識ノ概略

物理化學

物理ハ總論力學物質論熱學音響學光學越歷學磁氣學ノ要論
化學ハ非金屬金屬中重ナル諸元素及其化合物ノ製法性質及農業工業上
重要ナル有機物ノ性質等ノ要略

農業手工

農業ハ土ノ成分分類植物ノ成分等及肥料ノ用法家畜ノ選擇保護等ノ要
略耕作ノ實業器具ノ用法手工ハ木工具金工具ノ種類用法等及工業上ノ
理財ノ要略

家事

衣食住金錢ノ出納等ニ係ル事項及裁縫具ノ用法各種衣服裁縫等ノ實業
習字圖書

習字圖書

習字ハ摺書行書草書

圖畫

圖畫ハ自在畫法及用器畫法ノ要略

音樂

單音唱歌複音唱歌樂器用法及音樂上ノ名稱記號旋律和聲拍子等ノ要略
體操
普通體操ハ準備法矯正術徒手啞鈴棍棒球等ノ諸體操兵式體操ハ生兵學
中隊學行軍演習兵學大意測圖

- 第三條 尋常師範學校ノ修業年限ヲ四箇年トシ一學年ヲ以テ一學級トス
- 第四條 尋常師範學校ノ授業時限ハ一年四十週一週三十四時以上トス
- 第五條 各學科授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ
(授業時間配當表)

○高等師範學校生徒募集規則 明治十九年十月
文部省令第十八號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムル
コト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

- 第一條 高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選舉シ高等師範學校長其中ニ就キ選拔スルモノトス
- 第二條 高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選舉シ女生徒ハ尋常師範學校ノ二箇年ノ課程ヲ終リタルモノ若クハ之ニ均シキ學力並資格ヲ有スルモノヨリ選舉スヘシ
- 第三條 高等師範學校ノ男女生徒ハ毎年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都度高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ
- 第四條 新募生徒ハ初メ試驗生トシテ三箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限り本入學ヲ許スヘシ

○尋常師範學校生徒募集規則 明治十九年五月
文部省令第十號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校生徒募集規則ヲ定ムル
コト左ノ如シ

- 第一條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集スヘシ
 - 一 身體強健ニシテ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達シ得ヘキト認ムルモノ
 - 一 高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ
 - 一 齡十七年以上二十年以下ノモノ
 - 一 其府縣下在籍ノモノ
- 第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ
 - 第一種 郡區長ノ薦舉ニ係ルモノ
 - 第二種 直ニ師範學校ニ願出タルモノ
- 第三條 尋常師範學校ニ於テハ入學志願者ノ身體學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ
 - 身體ノ檢定ハ府縣立病院或ハ他ノ適當ノ醫員ヲシテ施行セシメ學力ノ檢定ハ高等小學校ノ學科程度ニ依テ之ヲ施行スヘシ
- 第四條 生徒ノ募集ハ毎年一度學期ノ始ニ於テシ其期日及員數ハ其都度前

以テ廣告スヘシ

第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ一箇月以上三箇月以內假ニ入學セシメ其資格品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限り本入學ヲ許スヘシ

第六條 入學志願者ノ願書薦舉書及履歷書ハ左式ニ依テ之ヲ出スヘシ

第一種 志願者願書式

某志願者ノ名 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度何郡區長薦舉書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

年月日

入學志願者

姓 名 印

當何年何月幾年幾月

何師範學校長某殿

薦舉書式

右ノ者儀豫テ當郡區內小學校教員志願ニ付今般御校生徒ノ募集ニ應シ入

族 籍

姓 名

學志願ノ旨申出候尤同人儀ハ履歷書ノ通何年何月當郡區何小學校卒業生ニシテ爾來何職ニ從事シ若クハ何郡區何學校ニ於テ何科ヲ修メ云々其資性品行ニ付テハ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達スルニ適スル者ト認メ候ニ付薦舉候也

年月日

何郡區長 姓 名 印

何師範學校長某殿

第二種 志願者書式

某志願者ノ名 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度尤某ノ身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受クヘク候間別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

年月日

入學志願者

姓 名 印

當何年何月幾年幾月

何府縣何國何郡區何町村何番地居住

何府縣華士族平民

保證人 姓 名 印

何師範學校長某殿

前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

何府縣何國何郡區長

年月日

姓名印

履歷書式

履歷書

何府縣何國何郡何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

生所何府縣何國何郡何町村

姓名印

何年何月生

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

卒業證書ノ寫

何々

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何誰ニ就キ何學修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校補助員ニ雇ハル

一何年何月何所ニ於テ何職ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ

一何々

年月日

第七條 保證人ハ其府縣下ニ本籍ヲ定メ現ニ入學志願者居住ノ郡區内ニ居住スル戶主タルヘシ

但師範學校長ニ於テ保證人ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第八條 保證人ノ住所師範學校ノ所在地ヨリ一里以外ニアルモノハ別ニ其以內ニ居住若クハ寄留スルモノヲ以テ保證人代理者トナシ豫テ其學校ニ留置不時急劇ノ用ニ應スヘシ

但師範學校長ニ於テ保證人代理者ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第九條 尋常師範學校生徒ノ員數ハ左表ノ如シ

第十條 郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ノ員數ハ郡區長ノ所轄區域毎ニ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十一條 郡區長ノ薦舉ニ關スル方法ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

生徒員數表畧之

第十條 郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ノ員數ハ郡區長ノ所轄區域毎ニ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十一條 郡區長ノ薦舉ニ關スル方法ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

○高等師範學校卒業生服務規則 明治十九年十月 文部省令第十九號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

- 第一條 高等師範學校男子師範學科卒業ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第二條 高等師範學校男子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス
- 第三條 高等師範學校女子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第四條 高等師範學校女子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

○尋常師範學校卒業生服務規則 明治十九年五月 文部省令第十一號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校卒業生服務規則

- 第一條 尋常師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第二條 尋常師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年間其府知事縣令指定ノ學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス
但郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年間其郡區長指定ノ小學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第三條 第一條第二條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アルモノハ其理由ヲ具シテ府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第四條 第一條第二條ノ義務ヲ終ヘサルモノハ其經歷書ヲ具シテ其府縣廳ニ届出ヘシ
- 第五條 謂ハレナク第一條第二條ノ義務ヲ盡サハルモノ或ハ服役年限内ニ於テ品行不正ニシテ其職務ヲ免シタルモノアルトキハ其都府知事縣令之ヲ文部大臣ニ具申スヘシ
- 第六條 府知事縣令ハ服務規則ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

○尋常師範學校經費豫算調差出方 明治十九年五月 文部省訓令第二號

府縣 沖繩縣 ヲ除ク

師範學校令第五條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ受クヘキ尋常師範學校經費豫算ノ

儀ハ其説明書ヲ添ヘ毎年九月十五日マテニ差出スヘシ

○卒業者ニ尋常又ハ優等ノ證書授與方 明治二十年八月文部省

訓令第
十一號

北海道廳 府縣

凡ソ學校ニ於テハ畜ニ其生徒ノ學力ノミナラス兼テ人物ノ如何ニ注目シテ學力ト人物トヲ査定シ各尋常優等ノ二等トシ卒業ノトキニ至リ之ヲ證明スル證書ヲ授與セシムヘシ就中尋常師範學校生徒卒業ノ上高等小學校長ニ任シ若クハ高等師範學校生徒ニ選舉スルモノ、如キハ先ツ其人物ノ優等ナルモノヨリ之ヲ選拔スヘシ

○尋常師範學校職員ハ一定ノ着服ヲナサシム 明治

一年九月
文部省訓令第二號

北海道廳 府縣

尋常師範學校職員ノ儀ハ殊ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保タシムルコト職務上必要ニ付自今該學校長教員幹事舍監ハ執務上一定ノ服ヲ着用セシムヘシ但本文改正一時ニ行届キ雖キモノハ來明治二十二年六月迄猶豫スルコトヲ得

○中學校

○中學校令 明治十九年四月
勅令第十五號

朕中學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中學校令

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等中學校ハ全國北海道神戶縣ヲ除クヲ五區ニ分畫シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條 高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域内ニ在ル府縣ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費分擔ノ方法等ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ

第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

○高等中學校設置區域内府縣委員會規則 明治二十年九月勅

令第四十六號

朕高等中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等中學校設置區域内府縣委員會規則

第一條 委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以内トス但府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スルコトヲ得

第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第三條 委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條 府縣會議規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

○高等中學校經費支辨方 明治二十年八月勅令第四十號

朕高等中學校經費支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ查定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定スヘシ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

○經費分擔額報告方 明治二十年九月文部省訓令第十三號

府縣沖繩縣ヲ除ク

高等中學校設置區域内府縣委員會ニ於テ議定シタル高等中學校經費各府縣分擔額ハ開會地ノ府縣知事ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

○高等中學校設置區域明治十九年十一月文部省告示第三號

勅令第十五號中學校令第四條ニ基キ高等中學校ノ設置區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校ノ設置區域

- 第一條 高等中學校ノ設置區域左ノ如シ
- 第一區 東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長崎縣
- 第二區 宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣 秋田縣
- 第三區 京都府 大坂府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 滋賀縣 岐阜縣 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣(明治廿一年文部省告示第十一號ヲ以テ德島縣ノ下ニ香川縣ヲ加フ)
- 第四區 新潟縣 福井縣 石川縣 富山縣
- 第五區 長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣
- 第二條 高等中學校ノ位置第一區ハ東京第三區ハ京都第四區ハ金澤トシ第一區第五區ハ追テ之ヲ定ム

○高等中學校位置明治十九年十二月文部省告示第四號

文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第二區ハ仙臺トス

明治二十年四月文部省告示第三號

今般高等中學校設置區域第二區内仙臺及第四區内金澤ニ高等中學校ヲ設置シ仙臺ニ設置スルモノヲ第二高等中學校ト稱シ金澤ニ設置スルモノヲ第四高等中學校ト稱ス

明治二十年四月文部省告示第二號

明治十九年十一月文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第五區ハ熊本トス

治明二十年五月文部省告示第五號

今般高等中學校設置區域第五區内熊本ニ高等中學校ヲ設置シ第五高等中學校ト稱ス

○高等中學校學科程度明治十九年七月文部省令第十六號

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ高等中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校ノ學科及其程度

- 第一條 高等中學校ノ學科ハ國語漢文第一外國語第二外國語羅甸語地理歷史數學動物植物地質礦物物理化學天文理財哲學圖畫力學測量及體操トス
- 第一外國語ハ通常英語トシ第二外國語ハ通常獨語若クハ佛語トス
- 第二條 高等中學校ノ修業年限ハ二箇年トス
- 第三條 高等中學校ニ於テハ二級ヲ設ケ每級ノ授業期限チ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス
- 第四條 高等中學校ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ
(授業時數表畧之)
- 第五條 高等中學校ノ各學科ノ程度左ノ如シ
- 國語及漢文
- 漢字交リ文及漢文ノ講讀作文
- 第一外國語
- 講讀會話作文翻譯
- 第二外國語
- 前項ニ同シ
- 羅甸語
- 文法講讀

地理

政治地理

歷史

希臘羅馬獨佛英米ノ歷史

數學

平面解折、幾何立體解折、幾何ノ初步方程式論大意微分積分

動物及植物

醫科動植物學及人體解剖學

地質及礦物

大意

物理

理論及實驗

化學

無機化學理論實驗及分析

天文

初步

理財學

大意

哲學

心理及論理

圖畫

書法幾何及用器書法

力學

運動學及分與固體液體ノ力學

測量

理論及實地演習

體操

兵式體操

第六條 高等中學校ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健

康年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ニ均シ

キ學力ヲ有スルモノトス

第二年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行身體年齡ノ資格前項ニ準シ其級

ノ課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス

第七條 高等中學校ニ於テハ豫科ヲ置クコトヲ得此場合ニ於テハ尋常中學

學校三年級以上ノ學科及其程度ニ據ルモノトス

第八條 法科醫科工科文科理科農商業等ノ分科ニ關スル學科及程度ハ別ニ

之ヲ定ム

○高等中學校醫學部學科程度

明治二十年九月
文部省令第九號

明治十九年^{四月}勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ高等中學校醫學部ノ
學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校醫學部ノ學科及其程度

第一條 高等中學校醫學部ノ學科ハ英語、動物學、植物學、物理學、化學、解
剖學、組織學、生理學、藥物學、病理學、外科病理學、內科學、外科學、眼科
學、產科及婦入學科、裁判醫學衛生學及體操トス

第二條 高等中學校醫學部ノ修業年限ハ四箇年トス

第三條 高等中學校醫學部ニ於テハ四級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ

一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第四條 高等中學校醫學部ノ各學科授業ノ時數左ノ如シ

(授業時數表畧之)

第五條 高等中學校醫學部ノ各學科ノ程度左ノ如シ

英語

講讀

翻譯

動物學植物學

醫科動植物學	
物理學	實驗
化學	實驗
解剖學	實驗
組織學	實習
生理學	實習
藥理學	胎生學理論 顯微鏡用法
藥學	處方學 調劑實習
病理學	病理解剖學
外科病理學	
內科學	

理論	精神病學	小兒病論	診斷學	臨床實習
外科學	皮膚病及梅毒病論	紉帶學	醫用器械學	手術論臨床實習
眼科學	臨床實習			
產科及婦人科學	臨床實習			
理論	臨床實習			
裁判醫學衛生學				
理論				
體操				
兵式體操				

第六條 高等中學校醫學部ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正
身體健康年齡滿十七歲以上ニシテ尋常中學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之
ニ均シキ學力ヲ有スルモノトス

第七條 高等中學校醫學部ニ於テハ第四年級ノ學年試業ヲ終ヘタル後更ニ
其級ノ課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス

全科ノ課目ニ就キ卒業試問ヲ行ヒ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

○附設藥學科學科程度 明治二十二年三月
文部省令第二號

明治二十年九月文部省令第九號高等中學校醫學部ノ學科及其程度ニ追加スル
コト左ノ如シ

附設藥學科ノ學科及其程度

第一條 高等中學校醫學部ニ藥學科ヲ附設スル場合ニ於テハ此學科及程度
ニ依ラシムルモノトス

第二條 高等中學校醫學部藥學科ノ學科ハ英語、動物學、植物學、物理學、化
學、分析、生藥學、製藥學、調劑學、藥局方及體操トス

第三條 高等中學校醫學部藥學科ノ修業年限ハ三箇年トス

第四條 高等中學校醫學部藥學科ニ於テハ三級ヲ設ケ每級ノ授業期限チ一
年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第五條 高等中學校醫學部藥學科各學科授業ノ時數凡左ノ如シ
(授業時數表畧之)

第六條 高等中學校醫學部藥學科ノ各學科ノ程度左ノ如シ

英語 講讀 翻譯

動物學植物學

藥用動物植物學

植物學實習

物理學

理論

實驗

化學

理論

實驗

分析

定性

定量

應用

生藥學

記述

鑑別實習

顯微鏡用法

製藥學

理論

製煉實習

調劑學

理論

調劑實習

藥局方

解釋

常藏藥毒藥劇藥極量暗記

體操

兵式體操

第七條 高等中學校醫學部藥學科ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校第三年以上ノ課程ヲ卒リタルモノ若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノトス

第二年級以上ニ入ルコトヲ得ヘキモノ品行身體年齡ノ資格前項ニ準シ其級ノ課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス

第八條 高等中學校醫學部藥學科ニ於テハ第三年級ノ學年試業ヲ終ヘタル後更ニ全科ノ課目ニ就キ卒業試問ヲ行ヒ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

○高等中學校法學部學科程度 明治二十二年七月 文部省令第五號

明治十九年^四勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ高等中學校法學部ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校法學部ノ學科及其程度

第一條 高等中學校法學部ノ學科ハ法學通論、民法、訴訟法、刑法、治罪法、商法、憲法、行政法、理財學、國際法、法理學實地演習及體操トス

第二條 高等中學校法學部ノ修業年限ハ三箇年トス

第三條 高等中學校法學部ニ於テハ三級ヲ設ケ每級ノ授業期限チ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第四條 高等中學校法學部ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ (授業時數表畧之)

第五條 高等中學校法學部ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノトス

第二年級以上ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行身體年齡ノ資格前項ニ準シ其級ノ課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス

○市町村立私立學校ニシテ中學校學科ト同等以上ト認ムヘキ事項ヲ具備スルモノノ狀況稟申方

明治廿二年五月 文部省訓令第一號

北海道廳 府縣

明治二十二年^月法律第一號徵兵令第十一條中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校ハ其市町村立ニ係ルモノハ左ノ第一項及第二項ニ該當シ私立ニ係ルモノハ左ノ各項ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟申スヘシ

一普通學校ニ在リテハ中學校ノ成規ニ準據シタルモノタルヘク農商工等ノ實業學校ニ在リテハ入學生徒ハ高等小學校卒業ノ者若クハ之ニ均シキ學力

ヲ有スル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルヘク其他專門
學校ニ在リテハ入學生徒ハ尋常中學校卒業ノ者若クハ概テ尋常中學校ノ
程度ニ據リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ニシテ三箇年以上ノ學科課
程ヲ具フルモノタルヘキ事

一所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員及校舍器具地所等ヲ具備スル事

一學校長及教員任免ノ方法一定確實ナル事

一授業料束脩等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ毎年ノ費金中二千四百

圓以上ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事

一設置以來三箇年ヲ經テ相當ノ成績アルモノタルヘキ事

○明治二十二年五月文部省告示第三號

京都府々立京都府醫學學校 大阪府々立大阪醫學學校 愛知縣々立愛

知醫學學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○明治二十二年七月 文部省告示第六號

京都府府立京都商業學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○明治二十二年七月文部省告示第七號

宮城縣縣立宮城農學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○明治二十二年七月 文部省告示第八號

兵庫縣縣立神戸商業學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○明治二十二年七月文部省告示第九號

大阪府府立大阪商業學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○明治二十二年七月 文部省告示第十號

大阪府府立農學校

右ハ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト
同等以上ノモノト認ム

○小學校

○小學校令 明治十九年四月
勅令第十四號

朕小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令

- 第一條 小學校ヲ分テ高等尋常ノ二等トス
- 第二條 小學校ノ設置區域及位置ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トシ父母後見人等ハ其學齡兒童ヲシテ普通教育ヲ得セシムルノ義務アルモノトス
- 第四條 父母後見人等ハ其學齡兒童尋常小學校科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムヘシ其就學ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 疾病家計困窮其他止ムチ得サル事故ニ由リ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認定スルモノニハ府知事縣令其期限ヲ定メテ就學猶豫ヲ許スコトヲ得
- 第六條 父母後見人等ハ小學校ノ經費ニ充ツル爲其兒童ノ授業料ヲ支辨スヘキモトス其金額ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 寄附金及其他ノ收入金アリテ小學校ノ經費ニ供スルキハ其收入及支出ノ方法ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 授業料及寄附金等ヲ以テ小學校ノ經費ヲ辨シ能ハサル場合ニ於テハ區町村會ノ議決ニ依リ區町村費ヨリ其不足ヲ補フコトヲ得

第九條 小學校教員ノ俸給旅費ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

第十條 小學校資金ノ收入及支出ハ其管理者ヨリ每三箇月府知事縣令ニ報告スヘシ

第十一條 小學校ニ屬スル資金ノ管理ニ關スル規程ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 小學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 小學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第十四條 私立學校ニ於テ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ豫メ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十五條 土地ノ情況ニ依リテハ小學校簡易科ヲ設ケテ尋常小學校ニ代用スルコトヲ得但其經費ハ區町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十六條 小學校簡易科教員ノ俸給ハ地方稅ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得

○小學校學科程度

明治十九年五月
文部省令第八號

勅令第十四號小學校令第十二條ニ基キ小學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校ノ學科及程度

第一條 尋常小學校ノ修業年限ヲ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ヲ四箇

年トス

第二條 尋常小學校ノ學科ハ修身讀書作文習字算術體操トス土地ノ情況ニ因テハ圖書唱歌裁縫兒女ノ科若クハ數科ヲ加フルコトヲ得（明治廿年文部省令第十號ヲ以テ唱歌ノ下ニ裁縫（女兒）ノ四字ヲ加ヘ二科ヲ數科ト改ム）

第三條 高等小學校ノ學科ハ修身讀書作文習字算術地理歷史理科圖書唱歌體操裁縫兒女トス土地ノ情況ニ因テハ英語農業手工商業ノ一科若クハ二科ヲ加フルコトヲ得唱歌ハ之ヲ缺クモ妨ケナシ

第四條 土地ノ情況ニ因テハ小學校ニ溫習科ヲ設ケ六箇月以上十二箇月以内兒童ヲシテ既修ノ學科ヲ溫習シ且之ヲ補修セシムルコトヲ得

但尋常小學校ニ於テハ修業年限ノ外高等小學校ニ於テハ修業年限ノ内ニテ之ヲ設クヘシ

第五條 尋常小學校ニ於テハ兒童ノ數八十人以下高等小學校ニ於テハ六十人以下ハ教員一人ヲ以テ之ヲ教授スルコトヲ得

第六條 小學校ニ於テ教員二人ヲ置クトキハ二學級ヲ設クヘシ兒童ノ數百二十人ヲ超フルトキハ三學級トナスヘシ

但教員三人以上ヲ置クトキハ本文ニ準シ學級ヲ設クヘシ

第七條 小學校ハ一箇年內凡八週間及日曜日大祭日祝日ハ休業スヘシ但土曜日ハ午後休業スルコトヲ得

第八條 小學校ノ授業時間ハ毎日凡五時トス

第九條 各學科ノ每週授業時間凡左ノ如シ

尋常小學校

高等小學校

一時三十分

一時三十分

十四時

十時

六時

六時

修身

六時

習字

四時

算術

二時

地理

二時

歷史

二時

理化

五時

圖書

六時

唱歌

二時乃至六時

體操

六時

裁縫

六時

第十條 各學科ノ程度左ノ如シ
修身 小學校ニ於テハ内外古今人士ノ善良ノ言行ニ就キ兒童ニ適切ニシテ且理會シ易キ簡易ナル事柄ヲ談話シ日常ノ作法ヲ教ヘ教員身自ラ言行ノ模範トナリ兒童ヲシテ善ク之ニ習ハシムルヲ以テ專要トス
讀書 尋常小學校ニ於テハ假名假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句及地理歷史理科ノ事項ヲ交ヘタル漢字交リ文高等小學校ニ於テ稍之ヨリ高キ漢字交リ文

作文 尋常小學科ニ於テハ假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句漢字交リ文口上書類及日用書類高等小學科ニ於テハ漢字交リ文及日用書類

習字 尋常小學科ニ於テハ假名日用文字口上書類及日用書類行書高等小學科ニ於テハ日用文字及日用書類行書

算術 尋常小學科ニ於テハ珠算ヲ用ヒ加法減法乘法除法普通ノ度量衡貨幣日用適切ノ難題又暗算高等小學科ニ於テハ筆算ヲ用ヒ算用數字簡易ナル命位記數加法減法乘法除法分數小數比例利息算雜題簿記ノ概畧及暗算

尋常小學科ニ於テ筆算ヲ用フルトキハ算用數字簡易ナル命位記數加法減法乘法除法普通ノ度量衡貨幣日用適切ノ難題及暗算トシ高等小學科ニ至リ分數小數比例利息算開平開立求積雜題簿記ノ概畧及暗算トス
(明治十九年文部省令
第廿五號ヲ以テ追加)

又尋常小學科ニ於テハ筆算珠算ヲ併置スルモ妨ケナシ(同上)
地理 地理ノ學校近傍ノ地形其郷土郡區府縣本邦地理地球ノ形狀晝夜四季ノ原由大洋大洲ノ名目等及外國地理ノ概畧
歷史 歷史ハ建國ノ體制神武天皇ノ即位王朝ノ政治藤原氏ノ專權幕府ノ創立徳川氏ノ治績王政維新外國交通貿易及世態文物人情風俗ノ變遷等

ニ關シ重要ナル事柄及忠良賢哲ノ事蹟

理科 理科ハ果實穀物菜蔬草木人體禽獸蟲魚金銀銅鐵等人生ニ最モ緊切ノ關係アルモノ日月星空氣溫度水蒸氣雲露霜雪霰氷雷電風雨火山地震潮汐燃燒腐敗唧筒噴水音響返響時計寒暖計晴雨計蒸氣器械眼鏡色虹槓杆滑車天秤磁石電信機等日常兒童ノ目撃シ得ル所ノモノ

圖畫 圖畫ハ自在畫及用器畫
唱歌 唱歌ハ單音唱歌複音唱歌
體操 體操ハ幼年ノ兒童ニハ遊戲稍長シタル兒童ニハ輕體操男兒ニハ隊列運動ヲ交フ

裁縫 裁縫ハ運針法襤褸單物袷等通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方
○明治十九年六月文部省訓令第五号

北海道廳 府縣
文部省令第八号小學校ノ學科及其程度ニ付實施上要スル方法ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

○小學簡易科教則 明治十九年五月
文部省訓令第一號

北海道廳 府縣
小學簡易科ハ左ノ要領ニ依リ土地ノ情况ヲ考ヘ其教則ヲ定ムヘシ

小學簡易科要領

一 修業年限 三箇年以内タルヘシ

但六箇月以上十二箇月以内ノ期限ヲ以テ補修科ヲ設クルコトヲ得(明治廿二年文部省訓令第三號ヲ以テ但書追加)

一 學科 讀書作文習字算術

但授業時間四時以上ナルキハ修身體操ヲ加フコトヲ得(同上)

一 學級 兒童六十人以下ノ場合ニ於テハ學級ヲ分ツコトヲ得ス

一 授業時間 毎日二時ヨリ少カラス五時ヨリ多カラス(全上訓令ヲ以テ本條改正但書刪除)

○特別認可學校

○特別認可學校規則 明治二十一年五月 文部省令第三號

明治二十年(七月)勅令第三十七號文官試驗補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ニ關シ特別認可學校規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

特別認可學校規則

第一條 本令ニ於テ特別認可學校ト稱スルハ明治二十年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ

依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ヲ謂フ

第二條 特別認可學校ハ修業年限三箇年以上ニシテ法律學法學通論憲法行政法民法訴訟法刑法治罪法商法國際法財政學理財學統計學史學論理學等ノ諸學科中七科目以上ヲ學修スル爲メ一定ノ課程ヲ設ケルモノタルヘシ但法律學ヲ主トスル學校ニ於テハ擬律擬判ノ課ヲ設ケルヲ要ス

第三條 特別認可學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校卒業證書ヲ有スル者國語漢文外國語地理歷史數學ノ各科ニ就キ尋常中學校ノ程度ニ依リ試驗ヲ經テ及第シタル者ニ限ル但數學中三角法ハ之ヲ除キ代數幾何ハ其初步ニ止ムルコトヲ得

第四條 特別認可學校二年級以上ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ前條ノ資格ヲ有シ且該級生徒ノ歷修シタル各級諸科目ニ就キ試驗ヲ經テ及第シタル者ニ限ル

第五條 特別認可學校ノ入學ハ豫メ學則ニ於テ其期日ヲ定メ置クヘシ入學試驗ヲ行フトキハ試驗期日三十日前ニ其科目及日限時間割ヲ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

第六條 特別認可學校長ハ其入學ヲ許シタル生徒ノ族籍姓名齡及試驗答書並評點ヲ具シテ入學期日後二十日以内ニ文部省ニ申報スヘシ但尋常中學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其校名及年月日ヲ記載スヘシ

第七條 特別認可學校ハ每學年ノ終ニ學年試驗ヲ行フヘシ其科目及日限時
間割ハ試驗期日三十日前ニ試驗成績ハ試驗後四十日以内ニ該學校長ヨリ
文部省ニ申報スヘシ

第八條 特別認可學校ニ於テ最終ノ學年試驗ニ及第シタル者ニハ左式ノ卒
業證書ヲ授與シ其旅籍姓名ハ授與ノ後十日以内ニ該學校長ヨリ文部省ニ
申報スヘシ

(卒業證書式畧之)

第九條 文部大臣ハ特ニ委員ヲシテ特別認可學校ノ試驗ニ臨監セシメ及管
理授業等ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十條 文部大臣ハ特別認可學校ノ管理及授業上改良ヲ要スルモノアリト
思慮スルキハ該學校ニ對シテ其改正ヲ命ス又本規則ニ依リ特別認可學校
タルノ資格ヲ有セシムヘカラスト思慮スルトキハ其認可ヲ廢止ス

第十一條 特別認可學校長ハ每學年ノ初三箇月以内ニ前學年間該學校諸般
ノ狀況ヲ文部省ニ申報スヘシ

第十二條 特別認可學校ハ其設立者設立者姓名アル及學校長連署ニテ左ノ事
項ヲ詳具シ府縣廳ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受ク可シ

一學科(特ニ教科用圖書ヲ定ムルトキハ其圖書)課程學期
一試驗規則

一入學退學規則

一學校維持法

一學校名稱

一學校位置

一生徒定員

一學校長教員履歷

前第一項ヨリ第七項ニ至ル各項ノ變更並學校長教員ノ變更ハ豫メ文部大
臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 特別認可學校タルノ資格ヲ得タルモノト雖モ尙一般私立學校ノ
例ニ依リ地方官ノ管理ヲ受クヘキモノトス

○醫學校

○府縣立醫學校費用支辨明治二十年九月
勅令第四十八號

朕府縣立醫學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
府縣立醫學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコト
ヲ得ス

○諸學校

○諸學校通則 明治十九年四月 勅令第十六號

朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

諸學校通則

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條 凡ソ教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

○學校收入金

○文部省直轄學校收入金規則 明治二十一年三月 勅令第十九號

朕文部省直轄學校收入金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄學校收入金規則

第一條 文部省直轄學校ニ於テ徵收スル授業料證明料其他ノ收入金ハ之ヲ蓄積シテ其基金ト爲スコトヲ得

第二條 已ムテ得サル場合ニ限リ該年度收入額二分ノ一マテハ文部大臣ハ大藏大臣ノ承諾ヲ得テ其學校ノ經費ニ充ルコトヲ得

第三條 學校又ハ學校ニ屬スル事業ニシテ國庫金ニ依ラス專ラ其收入金ヲ以テ經費ニ充ルモノハ第一條第二條ノ例外トシ文部大臣ハ大藏大臣ノ承諾ヲ得テ其收入金ノ種類ヲ定メ之ヲ支消スルコトヲ得

第四條 收入金ノ蓄積及管理ノ方法ハ文部大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五條 收入金出納ノ検査ハ國庫金出納ノ検査法ニ依ル

第六條 文部省直轄圖書館、博物館又ハ學士會院ニ屬スル收入金ハ此規則ニ依リ蓄積及支辨スルコトヲ得

○教員

○尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許

規則 明治十九年十二月 文部省令第二十一號

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校

卒業生及丁年以上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノニ之ヲ授與スルモノ

トス

第二條 高等師範學校ノ男子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校

及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ女子師範學科卒業生ニハ尋常師範學

校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ體操專習科卒業生ニハ體操

ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラスシテ某學科ノ教員免許狀ヲ得ント

欲スルモノハ文部省ノ檢定ヲ受クヘシ

第四條 檢定ハ文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム(明治廿二年文部省令
每年一回ノ
四字ヲ刪ル)

一學力

第五條 檢定ノ要目左ノ如シ

一品行

一身體

第六條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員ニ適スヘキ學力アリ

ト認ムルモノニ限り特ニ本文ノ例ニ依ラザルコトアルヘシ

第七條 試驗ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願

ノ學科ニ就テ之ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ檢査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ

記シタル願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長

官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付意見ヲ付記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

但檢定出願ノ時期ハ文部大臣之ヲ定メテ告示スルモノトス(明治廿二年
文部省令第
四號ヲ以
テ追加)

一學業證書賞罰等ノ履歷ニ係ル書面

一學業證書免狀ノ寫

第十條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ其既ニ差出シタル檢定料ハ

願下ヲナシ若クハ試驗ニ應セザルトキト雖モ之ヲ還付セサルモノトス

(明治廿年文部省第十
二號達ヲ以テ追加)

第十一條 免許狀ハ分チテ一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第十六條但書ニ依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノモノヲ得ント欲スルモノ及無等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ二箇年以上教職ニ從事シ其性格能幹超衆ノモノニ限り授與スルモノトス

第十二條 免許狀ヲ受クルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其書換ヲ請フモノハ書換料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收ス

- 一 但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ
- 一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ附セラレタルモノ
- 但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト

能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

- 一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ
- 一 荒酌暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ
- 一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

○尋常師範學校 同中學校 高等女學校 教員學力檢

定願書差出方 明治二十二年六月
文部省告示第五號

明治十九年^{十二月}文部省令第二十一號 尋常師範學校 尋常中學校 及高等女學校 教員免許規則第六條但書ニ依リ檢定ヲ受ケントスルモノニ限り何時ニテモ出願スルコトヲ得

○同上規則發令前授與シタル免許狀及卒業証書

ノ效 明治十九年十二月 文部省令第二十二號

文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則發令前文部省ニ於テ授與シタル中學校師範學校教員免許狀及東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學校卒業證書ハ尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ト同一ノ效ヲ有スルモノトス

○小學校教員免許規則 明治十九年六月 文部省令第十二號

勅令第十六號諸學校通則第四條ニ基キ小學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教員免許規則

- 第一條 小學校教員免許狀ハ師範學校卒業生及丁年以上ニシテ小學校教員學力驗定試験ニ及第シタルモノニテ授與スルモノトス
- 第二條 小學校教員免許狀ハ普通免許狀地方免許狀ノ二種トス
- 第三條 普通免許狀ハ文部大臣ヨリ授與シ全國ニ通シテ有效ノモノトス
- 第四條 地方免許狀ハ府知事縣令ヨリ授與シ其管轄地方ニ限り有效ノモノトス

第五條 普通免許狀ハ無期有效ノモノトス

第六條 地方免許狀ハ有期若クハ無期有效ノモノトス

第七條 有期ノ地方免許狀ハ五箇年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第八條 有期ノ地方免許狀ヲ有シ五箇年以上勤務ノモノニハ其經歷ニ依リ適任ノモノニ限り無期ノ地方免許狀ヲ授與スルモノトス

第九條 普通免許狀ハ高等師範學校卒業生若クハ地方免許狀ヲ有シテ五箇年以上勤務シ學術授業トモ超衆ノモノニテ授與スルモノトス

第十條 有期ノ地方免許狀ハ尋常師範學校卒業生若クハ小學校教員學力驗定試験ニ及第シタルモノニテ授與スルモノトス

第十一條 小學校教員學力驗定試験ハ尋常師範學校及其程度ニ據リテ之ヲ施行スヘシ

但一科若クハ數科ニ限りタル教員學力驗定試験モ本文ニ準スヘシ

第十二條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ルハモノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

但本文免許狀ヲ沒收シタルモノアルトキハ府知事縣令ヨリ其族籍姓名並ニ事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

一新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル

罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト

能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一荒酌暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限

ニアラス

一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレ

タルモノ

第十三條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ府知事縣令ニ於テ特

ニ小學校教員タラシメントスルトモハ其族籍姓名並ニ事由ヲ具シテ文部

大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 小學簡易科教員及小學校授業生學校規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第十五條 小學校教員學力檢定試驗ヲ受クルモノ及小學校教員免許狀ヲ受

クルモノハ其手數料ヲ納ムヘシ

但師範學科卒業ノ際免許狀ヲ受クルモノハ手數料ヲ納ムルコトヲ要セ

ス(明治廿年文部省令第

五號ヲ以テ但書追加)

學力檢定試驗手數料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ又該手數料ハ願下

チナシ若クハ試驗ニ應セサルキト雖モ之ヲ還付セサルモノトス(明治廿年

第十一號ヲ以

テ本項追加)第十六條 小學校教員學力檢定試驗ニ係ル細則ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校教員免許狀ノ書式左ノ如シ

(免許狀書式畧之)

○明治十九年六月文部省令第十三號

文部省令第十三號小學校教員免許規則發令前ニ於テ授與シタル小學校教員

免許狀ハ從前ノ通有效ノモノトス

但小初等學科免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科免許狀ヲ有ス

ルモノハ尋常小學校以下小學高等科免許狀ヲ有スルモノハ高等小學校以

下ノ教員タルコトヲ得

○明治十九年十二月文部省令第二十三號

文部省令第十二號小學校授員免許規則發令前東京師範學校及府縣立師範學

校ニ於テ授與シタル小學校師範學科卒業證書ハ其有效年間小學校教員免許狀

ト同一ノ效ヲ有スルモノトス

但初等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ尋常小學科以下中學及高等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルコトヲ得

○明治二十年八月文部省令第六號

明治十九年八月文部省令第十三號ヲ以テ從前ノ通有效ノモノトシタル小學教員免許狀ヲ有スル者及明治十九年八月文部省令第二十三號ヲ以テ小學教員免許狀ト同一ノ效ヲ有スルモノトナシタル小學師範學科卒業證書ヲ有スル者ニシテ該免許狀若クハ卒業證書ノ有效滿期ニ至リ猶教員トラント欲スル者ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其勤務ノ經歷ヲ調査シ適任ト定メタル者ニ限り更ニ該免許狀若クハ卒業證書ノ有效年限ヲ五箇年以内延期スルコトヲ得

○小學校教員普通免許手数料 明治十九年十一月文部省告示第一號

文部省令第十二號第九條ニ據リ授與スル小學校教員普通免許狀ノ手数料ハ金一圓ト定メ該免許狀書換ノ手数料ハ金五十錢ト定ム

○明治十九年十二月文部省訓令第十一號

北海道廳 府縣

文部省令第十二號第四條ニ據リ授與スル小學校教員地方免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三號ニ準據スヘシ

○小學校教員假免許狀授與方 明治二十年八月文部省令第七號

地方ノ情況ニ依リテハ當分北海道廳長官府縣知事ハ小學校教員トラント欲スル者ノ資格ヲ明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依ラス便宜檢定シテ相當ノ小學校教員假免許狀ヲ授與スルコトヲ得但本文假免許狀ノ有效年限ハ四箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

○某學校ノ教員免許狀所有者採用方 明治十九年十二月文部省令第二十四號

某學校ノ教員免許狀ヲ有スルモノハ等位ノ該學校ニ準スヘキ諸學校以下ノ教員タルコトヲ得

○生徒

○公立學校生徒集合取締方 明治十八年一月文部省第貳號達

府 縣

公立學校生徒ニシテ多乘集合シ躁暴危險若クハ奇異ノ行爲有之候テハ教育上不都合ニ候條右様ノ儀無之様其學校ニ於テ嚴敷取締可致尤モ運動等ノ爲メ集合スル時ハ學校ノ教員等ヲシテ監視セシムヘシ此旨相達候事

○同上躁暴危險奇異ノ舉動アルル生徒職員處分

方明治十八年一月
文部省第三號達

文部省本年(一月)第二號達ヲ以テ公私立學校生徒取締ノ儀相達候ニ付テハ
今後若シ右様ノ舉動有之ニ於テハ其情狀ニ因リ生徒ハ文部省明治十六年
(十一月)第十八號達ニ據リ處分シ學校長教員等ハ文部省明治十四年(七月)
第二十六號達同十六年(五月)第九號達及官吏懲戒例ニ據リ處分シ私立學校
ハ停止スヘシ此旨相達候事

○華族就學規則 明治二十年一月
宮内省達第一號

華族

華族就學規則左ノ通改正ス

華族就學規則

- 第一條 華族男子ノ學齡ハ滿六年以上滿二十二年以下トス
- 第二條 華族男子ニシテ學齡ニ當ル者ハ學習院ニ入學シ一定ノ學科ヲ修ムヘシ
- 第三條 中學校以上ノ生徒ハ學習院ニ寄宿スヘシ但疾病又ハ正當ノ事故ニ因リ寄宿スルコト能ハサル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ通學スルコトヲ得

第四條 東京住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十年未滿ノ者正當ノ事由アリテ學習院ニ入學スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ他ノ小學校ニ入學シ小學尋常科ヲ修ムルコトヲ得

第五條 地方住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十二年未滿ノ者學習院ニ入學スルコト能ハサルトキハ其地方ノ小學校ニ入學シ小學尋常科若クハ中學豫備ノ小學課程ヲ修ムルコトヲ得

第六條 學齡者ニシテ第四條第五條ニ依リ未ダ學習院ニ入ラサル者該條規定ノ年齡以外ニ至リ疫病ノ爲メ正當ノ教育ニ堪ヘサルカ或ハ正當ノ事故ニ依リ遠ク其家ヲ離ルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ得テ學習院外ノ學校ニ於テ修業スルコトヲ得

第七條 學齡者疾病ニ因リ學習院若クハ他ノ學校ニ入學スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ得ヘシ

第八條 學習院生徒ニシテ陸海軍ノ學校ニ入學セント欲スル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ其召募ニ應マヘシ

第九條 學習院中學校以上ノ生徒ニシテ學習院本科並ニ陸海軍學校ニ入ルノ外適當ノ專門學校ニ入ルノ志アル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ入學スルコトヲ得

第十條 事故アリテ未ダ學習院ニ入ラサル者ト雖モ宮内大臣ノ許可ヲ經テ